銀河戦国群雄伝20

ライ

真鍋譲治

Dengeki Comics EX

DC EX 銀河戦国群雄伝ライ 20

真鍋譲治

DE-5-20

発行 メディアワークス
発売 主婦の友社

9784073118985

1920979009301

ISBN4-07-311898-6

C0979 ¥930E

発行●メディアワークス　発売●主婦の友社　定価：本体930円 ※消費税が別に加算されます

RAI

BY JOJI MANABE

20

銀河戦国群雄伝

ライ

● ARTIST
JOJI MANABE

● EDITOR
KATSUO ANDO
ANRI KOMATSU

● BOOK DESIGN
TETSUYA ASAKURA

● SPECIAL THANKS TO
MASAHIKO YAMASHITA
YOSHIKI MORISHITA
TOSHIMICHI OKITA
HIRONORI NAGAI

戦国の銀河を生き抜く群雄たち

【竜我雷】りゅうがらい

本編の主人公。その度胸と悪運の強さを狼刃に買われて一兵卒より師団長に抜擢、五丈軍先鋒として南天に雪崩れ込む。南天軍の前線を突破するや、大暴れして要衝、座王都に一番乗りを果たし、その勇名は敵味方に響き渡る。その後も、数々の戦功により、昇進に昇進を重ね、骸羅のクーデター時には、南京楼の太守に収まっていた。初めて地盤を得た雷は、その地で希代の天才、師真を軍師として迎え、また、皇室の娘、紫紋を妻に娶ると、すぐさま中央に反旗を翻し、挙兵する。圧倒的に不利な状況の中、死闘を展開、ついに金洲海にて恩師、狼刃を涙をふるって倒した。その余勢を駆って、偽帝、骸羅をも打ち倒し、全五丈を平らげる。その後、玄偉、西羌王ら反竜我派の反乱を鎮圧する中、五丈王に即位し、尊号を竜王と称する。西羌と和を結び、着々と国内体制を固める雷に対し、智の正宗とそれに呼応するかの如く北伐を決意した、南天王、羅候率いる南天軍が、ほぼ同時に大挙して五丈領土に侵入、国力が整わない五丈は最大の危機を迎える。雷は軍師、師真の戦力集中による各個撃破の策を取り、まずは開彭沖にて正宗軍と激突、最後には単艦同士での一騎打ちにより、ついに宿敵正宗を倒した。雷は返す刀で、南天軍主力を六紋海におびき寄せ、天文を利用した戦法で壊滅的な打撃を与える。歴史の分岐点となったこの戦いで雷の覇者への道が確定した。

【大覚屋師真】だいがくやししん

南京楼の豪商、大覚屋の放蕩息子。普段は酒色に溺れて甚だ評判が悪い。だがその知謀たるや史書、経書から兵法、天文、医学に精通した天才的な戦略家である。並みいる諸侯からの度重なる招きをすべて固持し、時を待つが紫紋に横恋慕したことによる縁で雷に出会い、以来その才覚を余すことなく発揮、雷の覇業の最大の立役者である。六紋海の戦いでは雄大な戦略を立て、敵軍師、姜子昌との決戦に挑み、これを撃ち破る。

【紫紋】しもん

敗将阿曹主禅の一人娘。皇室の血を引く唯一人の女性故に、辛い運命に弄ばれる悲劇の女である。父親を雷に殺された後、五丈に身柄を引き渡され、恩賞として仇でもある雷の許に預けられた。だが、雷とはそれを乗り越え、深い愛情を寄せ合うことになる。正妻となってからは、戦場に赴く雷を陰日向に支えていく気丈な娘である。

【麗羅】れいら

雷の主君であった比紀弾正の娘。勝ち気な性格で、雷との絡みで紫紋とはよく対立し、反乱の罪を被せて紫紋を殺そうとしたこともあった。弾正の死後、国政を乗っ取るが骸羅に国を追われ、雷の許に転がり込み、第二婦人として、雷の第一子である梵天丸をもうける。一時険悪であった紫紋とも和解し、子育てに励んでいる。

【雲海入道】うんかいにゅうどう

雷の兵卒時代からの戦友。かつては高僧にも仕える身分であったが、大酒飲みが仇で宗門を追われた破戒坊主。だが、雷にとっては最も頼りになる豪傑である。終始、雷とは戦場を共にし、また、雷の密命を帯び、暴政下の武王都より麗羅を救出、無事雷の許に送り届けた。六紋海の決戦においては一軍を率いて奮戦し、雷を守る。

【孟閣】もうかく

冷静で勇猛な剛将で、南征以後、常に副官として、経験不足の雷を適切に補佐する。歴戦の強者であり、その豊富な戦歴に裏打ちされた知識と経験を基に、よく雷を助け、軍事部門の責任者として、その覇業に重きをなす。六紋海の戦いでは、息子の孟起と共に雷の身を案じ、奮戦する。

【三楽斎】さんらくさい

五丈の尚書令。師真に次ぐ、実質、五丈家臣団ナンバー2である。極めて有能な能吏派軍人であり、弁舌の才を持って雷を補佐し、外交、内政面においてその優れた才能を、遺憾無く発揮する。

【鐘士元】しょうしげん

五丈軍の勇将。雷の師団長以来の宿将で、その勇猛果敢さで、常に先鋒を受け持ったが、師真のような新参者とは反りが合わず、対立した。だが次第にその知謀を認め、その指揮下に入り活躍する。

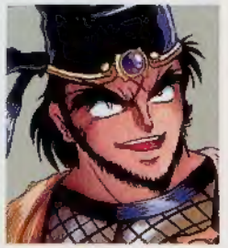
【姚文】ようぶん

五丈軍の勇将。鐘士元らと共に雷の股肱の臣である。やはり師真とは合わなかったが、その命には良く服し、戦功を重ね、雷の覇業の一翼をなす。よく書

をし、武勇一辺倒ではない男でもある。

【項武】こうぶ

雷の旗揚げ時からの宿将であった項焉の息子で、八十斤はあろう大斧を片手で軽く振り回す豪傑である。その武勇を買われ常に先鋒を任される。六紋海では、星海に散った項焉の仇を討つべく奮戦する。



【林則嘉】りんそくか

五丈軍の謀臣。若い頃は風采も上がらず誰にも相手にされなかったが、南京楼城内に出入りしている間に師真に見出され、雷輔翼の人物として師真と双璧をなすようになる。天才肌の師真に対して、地味ながら、その誠実さをもって数々の献策をし、雷の覇業を助ける。特に金州海の戦いにおいて、焦る雷を勇気を持って諫めたことは、その後の雷の成長を考えると特筆に値する。

【如海】じょかい

東河の七賢人と呼ばれた処士の一人。田舎において晴耕雨読の生活を送っていたが、五丈を平定した雷により、三顧の礼を持って迎えられ、幕下に入る。

【孟起】もうき

孟閣の息子で五丈軍の第二世代を代表する青年武将。六紋海の戦いでは、遊軍を率いて八面六臂の活躍をする。

【装伯】そうはく

造船総監装民の甥。五丈軍の技術者の要の一人であり、装民の作った巨砲を自走砲艦として生まれ変わらせた。

【呂朱】りょしゅ

五丈軍の中堅武将。雷の挙兵に応じ、憮羅派の大守を殺して雷の許に馳せ参じた功により、奮威将軍に進んだ。

【鐘才】しょうさい

郡役所の下級官吏から鎮南将軍にまで登り詰めた苦労人。六紋海の戦いでは、後方遮断の任を任される。

【大覚屋英真】だいがくやえいしん

師真の弟で豪商大覚屋を擁しての南京楼産業界の若きリーダーである。その立場から雷の良き経済アドバイザーとして活躍、憮羅暴政後の五丈経済再建に大きく貢献するが、長引く戦乱に民が疲弊しきっていることを悟り、早期講和の道を模索し始める。

【羅候】らこう

南天王。父、羅鶴の死後、兵権を引き継ぐ。当初は南天の大国、智に従属していたが徐々にその勢力を広げ南蛮国王女、邑峻を娶りその地盤を強固なものにする。正宗の北伐時には、隙を突き南帝閣を占拠、虎丸を智王に立て正宗を失脚させる。南蛮王の死去後、その王位も継ぎ、錬、南蛮二国の盟主となり南天に揺るぎない地位を築く。その後、正宗が復権すると見るや、素早く智領土の併合を謀り、正宗と智王を遙か、領土外に追いやる。次いで、天下統一の最後の障害である五丈に、空前の大軍団で侵攻するが、六紋海で完敗する。

【姜子昌】きょうしちょう

練国きっての名将。羅候の竹馬の友である。若くして、練軍の大都督に就き、羅候を補佐し、練国の発展に尽力する。正宗による銀河統一を阻止するべく画策、幼王虎丸を立てて正宗を失脚に追い込む。だが、誰よりも正宗の恐ろしさを知っており、その警戒を怠らなかった。この度の北伐では、総大将に就任、師真と対決する。

【蹄庖】ていほう

練の若き武将。知勇に秀で、姜子昌の右腕として、羅候を助け奮闘する。戦功だけでなく、南蛮や正宗の許に使者として遣わされ、首尾良く務めを果たすところなどは、彼の非凡な才能を示している。

【龍緒】りゅうしょ

夏候獣と共に、琥瑛罵洲、羅候の二君に仕えた老臣。実質的には練の宰相職にあり、法令、兵法、いずれにも造詣が深く、北伐にも帯同はしているものの、数多い将官の中にあっては、慎重派である。

【邑峻】ゆうしゅん

南蛮王琥瑛罵洲の一人娘。羅候とは許婚の仲である。南蛮王国との連携を強めるために、羅候の許に輿入れ、百人もの女兵士を従えるなど相当なじゃじゃ馬ではあるが、意外にも花嫁修行には熱心だった。とにかく羅候が好きで好きでたまらないという感じで、それ故に城内を餃子だらけにしてしまうなどいろんな騒動も起こす。羅候の本格的な北伐にも同行し、身重の身体でありながら、大鉈を振り回しての大奮闘した。

【神楽】かぐら

南天国の女武将。白象戦車隊を駆り八十斤の鎖鉄槌を振り回す猛者である。姜子昌にほの

かな恋心を抱くが、六紋海の戦いで、奮戦空しく、一度は破った項武に捕らえられ、そのまま彼の妻になる。

【飛竜】 ひりゅう

正宗の側近。姜子昌と共に兵学を学んだ仲ではあるが、互いに違う主君に仕えることによって、敵味方に分かれてしまう。正宗から絶大な信頼を受け、その死後、文字通り粉骨砕身、智国復興に励むが、五丈の進駐を阻めず。

【華玉】 かぎょく

玄偉の腹心。李張導師の高弟で、その秘められた力で玄偉の暗躍を助ける。偽帝討伐時には師真と功を争うが、

寸でのところで破れる。その後も刺客の梨扇を使い、雷暗殺を謀るが失敗。玄偉の滅亡と共に雷に降り、幕閣に迎えられる。

【梨扇】 りせん

華玉の部下の女間者。雷の南京楼赴任中、奥女中として潜入。紫紋付きの女官となり、雷暗殺の機会を窺うが、次第に雷に惹かれていく自分に気付き、いっそ切られて死のうと謀るが果たせなかった。

【李張】 りちょう

弾正の元軍師。その弟子には華玉、骸延など知謀の士が多い。銀河の覇者の出現を予見している。

【蘭々】 らんらん

華玉の妹。共に李張に学ぶ。道士としてその能力は未知数だが幼い割にはしっかりして、

紫紋に仕えながらも彼女の良き友でもある。玉の輿を狙ったりするなど、なかなかのしたたか者。

【秦宮括】 しんていかつ

銀河の外周に位置する西羌国の統治者。雷の人間の大きさに感じ入った彼は雷との共存を謀るが…。

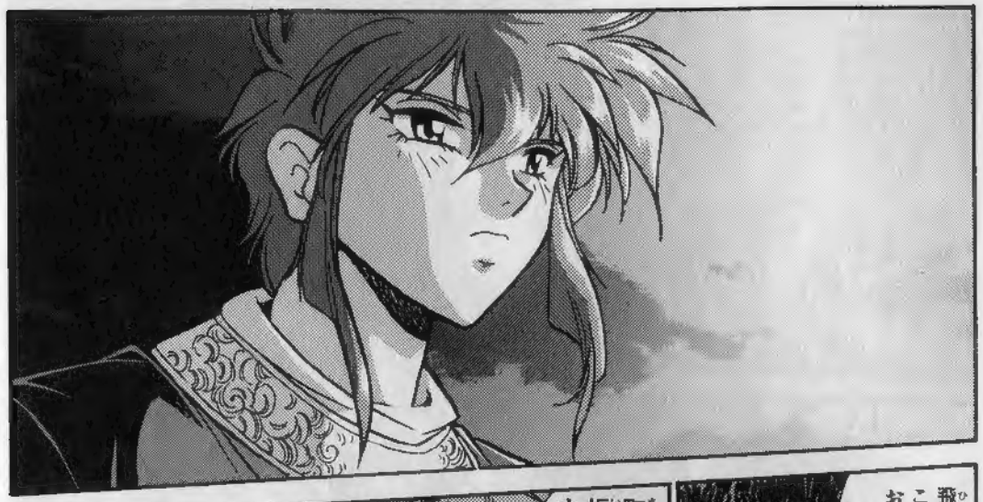
【智王】 ちおう

正宗の実弟で智国の君主であるが、その心は弱く、軍事、政務共に正宗に頼りっきりであった。やがて正宗の死によって、その政権は脆くも崩壊、群臣にも去られた彼を雷は躊躇無く処刑する。

なんですって！
智王が
自害!!

……
副軍師殿
何を驚かれて
おります
智領を召し上げ
智王には自害を
迫る…
林殿も
了承済みの
はずでしょう
それがしが
決意をうながす
白帯を渡して丸一日
智王にしては
早い決断でしたな
いやわたしは
智王に確かな
罪状があれば
罪に問うと
申したまで…！
如晦殿は
曲解なさって
いる!!
俺が
命じたのだ！
陛下…
恐れながら
申し上げます！

確かに智王は姉君には似ても似つかぬ暗愚でございます
しかし即位してまだ日も浅くそれを罪に問うのはいかがでございましょう
もういい…すんだことだ！
遺体を葬り病死と公表しろ！
陛下！
わたしが憂えるのは智の領民の反発でございます！
陛下の人徳が行き渡らないうちに軽々しく王を死に追いやっては必ずや災いを招きましょう！
林！
およそ民百姓は衣食がこと足りていれば支配者が誰であろうとかまわんのだ
俺もおまえも平民出身
自分のことで精一杯だった昔を思い出してみろ乱など起こらん！
……
南帝閣に長居する気はない！
明日早朝に発ち斉王都にもどるぞ
はは――っ！
……



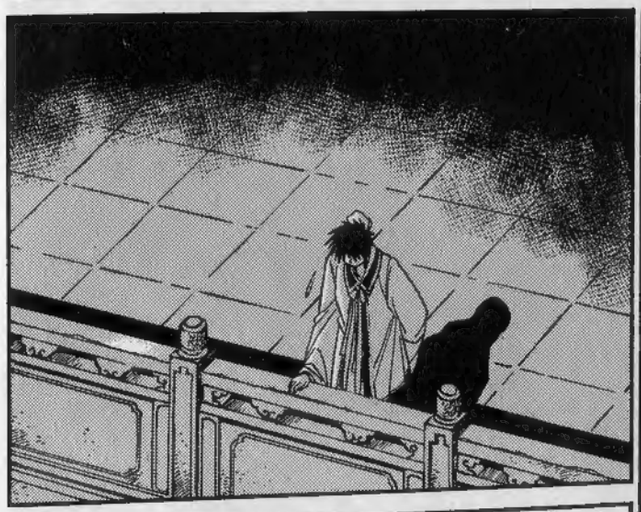
飛竜殿
こちらに
おいででしたか
扶華殿

町医者姿が
板についてきた
ようですね
ははは
これはしたり
宮仕えと違い
民の心情に直接触れる
ことができ
第二の人生と思い
励んでいる次第で
ございます

飛竜殿は
これから
いかが
いたしますか
わたしは
しばらく
旅に出ようと
思っています

時代の潮流が
天下統一に向かって
一気に流れつこうと
する今
わたしは
何をすればいいのか…
自分の想いを
遂げるには
どうすればいいのか…

この足で
それを見つけたいと
思います



違う…
わたしの考えていた
銀河統一への姿とは
違ってきている様な
気がする

竜王様は
智王の生きる
資格すら
認めようとは
しなかった…
それは
あの人が望まなければ
生きる権利すら
ないということ
なんだろうか…

陛下のご性格からして
智王の堕落した
生活を嫌悪されるのは
わかる…
けど
いくら動乱の
時代とはいえ
それだけで
生きる権利すら
奪われるのか？
逆に人間が
別の人間の生死を
決める権利が
あるのだろうか…

わたし達は
今 一人の男を
銀河の覇者に
押し上げようと
している…

だけどそれは
一人の英雄じゃなくて
だれにも束縛されない
絶対権力者の
誕生じゃないのか…

太助さんの死で
少し変わられた
ような気がする…

俺を
冷酷な男だと
思うか？

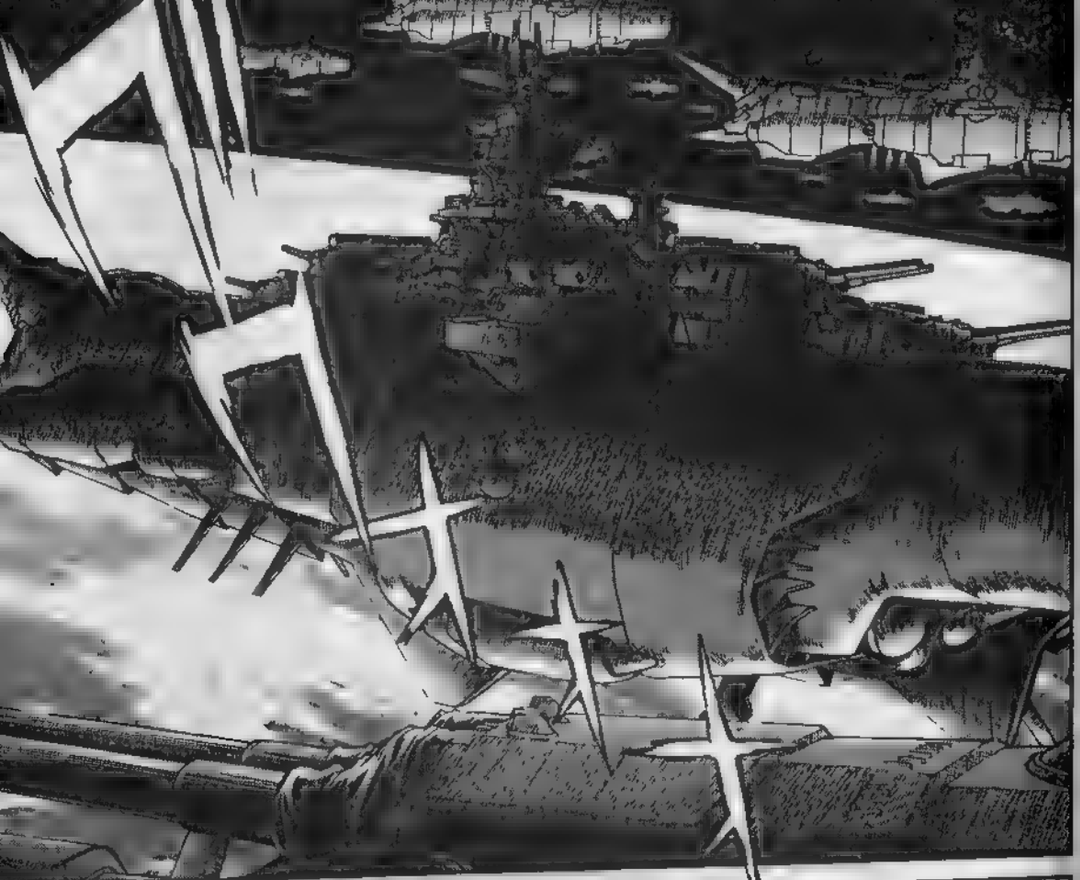
!!

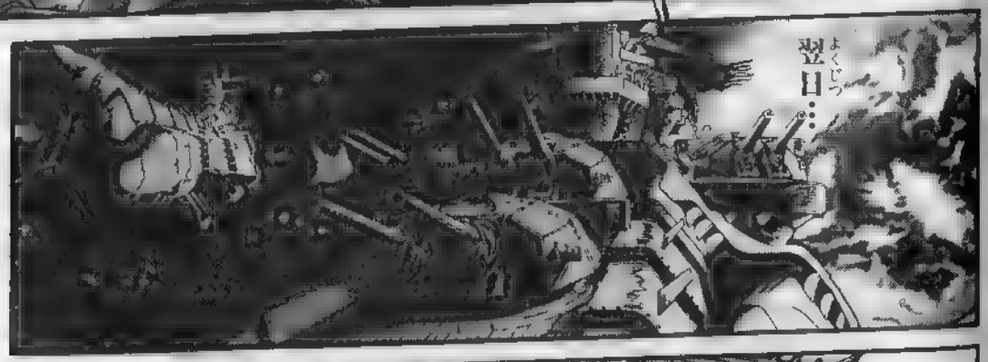
いや わたしの
考えすぎだ…
今までだって
竜王様を
信じてきたんだ
竜王様と新しい
世界を作るんだって…

けど…
けど…
陛下は以前は
もっと朗らかだった…
よく
笑われた…

どうした？
答えろ…！
りゅっ…
竜王様!!
あ…
ああ…
俺の問いに
答えるのが
軍師の役目だろ
お…
お許しください…
わたしは…
わたしは
本当に小さくて…
弱い男
なんです…
それで…
それで…
は？

おいおい
しっかり
しろよ
将来
大帝国の大臣に
てもなろうか
という男が
何 腰抜かして
立いてんだよ
ええ？
す…
すみません…
ふ——
あ…
あの
陛下…
こいつを
受け取れ
こ…
これは？
開けてみな
……
そいつを
おまえに
やろう
ええっ
しかし
これは…!!
時には
兵士達を地獄の
戦場に放りこみ
時には民百姓から
鼻血も出ぬほど
税をしぼり取らねば
ならん！
人の生命と財産を
扱う者が
国家の長たる
責任を
捨ててどうする
これは…
智王の玉璽!?
わかるか？
そのちっぽけな印に
この智国の全てが
含まれているのが…
王位を継ぐってのは
その全ての責任を
自分で負うって
ことだ




翌日…

事後処理を
如晦に任した
雷は一路
斉王都への
帰還の途についた
南帝閣には
わずか一日余りの
滞在であった

それを
見て
王位の重さを
感じてみてくれ
その重さを担う
男の決意と
責任を
考えてくれ
何もせず
何も考えず
何も決めなかった
王と
その王のために
死んでいった者の
こともな

そうして
俺が冷酷か
どうか…
考えてくれ

正宗に
別れは
言ったか？
ふっ…
今度のこと
正宗は
どう思ってるかな
さあーねー
それよりは
今回はおまえの
ことを
見直したぜ
何のことだ？
まーたまた
おまえが智領に
敷いた統治
システムだよ
巧妙と
いうか
何というか…

王は殺したが
王を支えた
支配階級は
そのまま
ただし現役の者は
全て退官させ
一族の若い身内と
交替させる
おまけにさらに
そいつらの息子は
五丈本国に送って
人質兼未来の
支配階層予備軍として
教育するときた
いやはや
これじゃ
血も流れん
わけだ
お誉めに
預かり
光栄だな
まいつまでも
おまえや林に
おんぶに
だっこじゃな
なんだよ～
もっと頼って
くれよ～
それとも
もう俺は
お払い箱か？
バカ言え！
まーだまだ
教わることは
山程ある
悪いが
華玉とイチャ
ついてる暇は
ねえぜ
一言多いんだよ
一言！
そーいや
支配階層って
いえば…
名簿の中に
飛竜の名は
なかったな

あいつは俺のために働かんだろう…

泳がしとくには危険じゃないか？

いや…

立てるべき王族はなし

正宗の側近ながら智を見殺しにしたんだ智の領民も動かねえだろ

いや――っナイス慧眼!!恐れ入りました

何いってやがるおまえの受け売りだ！

智にも五丈にも身の置き場のない飛竜の行き先は…

南天しかないだろうな

じゃあ戦場で再会か

惜しい人物だが

その生き方を全うさせてやるのも慈悲ってやつだろう

ぢゃほぉっ!!
やぁほぉ やぁほぉ
ちょ…ちょっと呂蛟様!
こんなにたくさん産―まれた♪

づ……!!
出る出る出ちゃうよ……!!
がんばって呂蛟様!
ねえ羅候は!?
羅候はどこにいるの~!!
ら…羅候殿は…
はいっ呂蛟様!羅候様ですよ!!
ね♡
さあ呂蛟様羅候殿も応援してますよ!
羅候……
うん♡がんばるよ羅候の赤ちゃんだもん…

んー
よちよち
梵天丸〜〜
おっぱい
パンパン飲んで
早う大きい
なりやー
アン♥
こらっ
舌
使うたら
あかんやん!
んもー
そーいうとこは
ホンマ
雷そっくり
なんやから〜

な…
なんや
なんや!!
また
玄偉かい!?
あー
いたいた!

お…
おんどれは
羅候の…
なんやねん
さては
梵天丸の命
狙っとるなーっ!!
ななな…!
じろ
五対一!
羅候の
勝ちぃーっ!!

五対一の
羅候の勝ち？
見て見て
あたしなんか
こんなにたくさん
産んじゃった♡
羅候の
子供よー♡
みーんな
アホゥっ!!
ぎょーさん
産みゃぁ
ええっちゅう
もんと
ちゃうわい!!
なによーっ
数が多い方が
いいに決まってる
じゃない!
五人も跡取りが
いれば
羅候王朝は
安泰よ!!
第一
五人もおってみい
すーぐ兄弟ゲンカや
国がバラバラに
なるで——
骨肉の争いや!!
はっ!
それは一割る五っ
ちゅうことや!
五人そろって初めて
うちの梵天丸
一人分や!!
大丈夫だもーん
銀河を五つに
平等に分けるもん
ケンカなんか
しないわよーだ
何ゆうてんねん!
それこそ
捕らぬ狸
の何とやら!!
おやめなさい
二人とも!
紫紋～～～
せやかて
こいつが～
そんな小さな
赤ちゃんを前に
銀河だ
天下だも
ないでしょ!
赤ん坊のうちは
そんなこと考え
なくていいの
元気に
育って
くれればね
……
ミャ～
元気さやったら
負けとるんと
ちゃうか…
梵天丸なんやら
ノホホンと
してるし…
おっぱい
つしかないのに
どーしよ…
この子達
餓えちゃう

聞いた？
敵の殿様の奥さん
五つ子だってねぇ

――南蛮の女って
多産系なのかねー

生き残るのが
大変だとか――

そうか―
邑蛟様
無事に
お世継ぎを…

おめでとう
ございます…

はあ…

それに比べて
あたしは…

今じゃ
哀れな
虜囚の身…

憎き敵将の
嫁にと
下げ渡されて

せめて…

せめて
姜子昌様に
餃子の感想を
聞きたかったな…

はあ

ゴーリゴーリゴーリ

キボキ

ちょっと
ちょっと
なーに？

ちょっと
ごらんなさいよ
奥様が!!

まあ
奥様が台所に！

珍しいことも
あるでしょ
何か手料理をお作りに
なってらっしゃるのよ

じゃあ
旦那様への
愛妻料理！

そりゃあもう！
いいわね
新婚ホヤホヤって
感じ♡

ギロッ

なんだ
なんだ
メシはまだかよ～
…ったく
ここの女供ときたら
しゃべくってばっかで
役に立ちゃしねえ！
ふん！
おういっ！
何やって
やがんだ！
俺を餓死させる…
！
う――
腹へった
腹へった
ガバッ
あ…あの
奥様
だ…旦那様は
辛口がお好きで…
その…
きゃあっ!!
スミマセン
スミマセン
おっおっ
何だ
あるじゃねーか！
蒸し餃子か
久しぶり
だよな！
どれ一つ…
ほー
こりゃ
なかなか…
項武…!!
あんたぁ…!!
な…なんだ
てめえ！
自分の家で
何食おうと
俺の勝手だろ!!
ゴゴゴゴゴゴ

問答無用!!!
勝手だってえ…!?
あんたの食った餃子を何だと思ってるの…!
餃子は餃子だ!!
それは姜子昌様に渡すための餃子なのよ!!!
ちょ…ちょっと待て!
待てって言ってるだろ!!
なんだそりゃ!?
なんで姜子昌なんかが出てくんだ!?
南蛮じゃねぇ!!
ビュ!!!
うわっと!
好きな男の気持ち確かめるために…
餃子を送るのよ!!
その乙女の淡い恋心をーっ!!
あんたはそのでかい口でムシャムシャと――っ!!
じゃ…
じゃあてめえ…姜子昌のことを…!
!

バ…バカヤロー
何言ってやがんだ!
あたしは別に…
その…
ただね――っ!!
てめえでキッチ・まったじゃねーか!!
よーし
とにかく
事情は
わかった!
乙女心は
大事に
しなきゃあな!!
そいつは
俺が
姜子昌に
届けてやる!!
おまえは
がんばってもっと
うめぇ――っ
餃子を作れ!
そりゃ
そうだな!
料理が下手じゃ
男に嫌われる
よな!!
え?
よーしよし
俺も協力
してやるぜ!
こう見えても
食いもんには
ちとうるせえんだ!!
え?
じゃ…
じゃあ
あたしのさっきの
餃子はどう?
衣の歯触りが
今一つだ!
具も
数入れりゃ
いいってもんじゃ
ねえぜ
調和ってのが
大切だ!!
ありがとう!!
まだまだ
努力が必要ね!
あたし
がんばるわ!!
よーし!
よく言った
姜子昌もびっくりの
究極の餃子だぜ!
ばっ!!
と…とにかく
その間は
休戦だからね!!
わ…わかってら!!
ケンカしてる
暇ねえからな!!
かまん
かまん…!
とにかく
姜子昌様の
お心を確かめるのが
先決よ…!
けっ!
餃子か姜子昌か
なんだか知らねえが
とにかく
破談に持ち込む
口実を作らねえとな…!
ふふふ
そうすりゃ
いくら竜王様でも
無理強いは
しねえよな…
なに?
好いた
男がいる?
そーなんよ
こいつのきもちを
だいじにしたって
ようし
さっそく
材料の吟味
からだ!
市場に行くぞーっ!!
おうっ!!

これは先程
届いたのですが…
弟君
英真殿よりの
上奏文で
ございます
さて
この財政難のおり
英真殿は
いかような良策を
お持ちですかな？

よう！
おっ
こりゃ
丞相
何か
ご用で？
いや別に…
それにしても
いそがし
そうだな
何
やってんだ？
いや
全部
上奏文の写し
ですわ
尚書令として
竜王様の上奏文は
全て目を通して
ますんで…
いや
このご時勢
みんないろんなこと
言ってきましてな
ほ――
どれどれ…
あっ
そういえば…

三楽斎！
今後
英真の上奏文は
取り次ぐ必要は
ない！
中身など
見ず
焼いてしまえ！
は…
いや
しかし…
これは
命令だ！
できぬというなら
おまえを
罪に問うぞ！
ああっ!!
な…
何をなさいます!?
はて…？
あんなに
仲の良かった
兄弟なのに…
何か
あったんだろうか…
番兵殿
それがし
三楽斎様に
お会いしに
毎日 日参
しているのですが
いつもお目通りが
かないません
三楽斎様は
それほど
お忙しいのですか？
いや
尚書令様の
仕事につきましては
我々にはちょっと
それはわかって
おりますが
そこを一つ
お取り次ぎ
願えませんか
それでは
しばし
お待ちを
五丈による
南征が始まる前に
何としてでも
竜王様に拝謁し
話を聞いていたたかねば…
これ以上戦を
続けても
失うものはあっても
得るものなんか
一つもないはず…！
お客人！

お逃げになった方がよろしゅうございますぞ
丞相の命により
あなたを捕縛する準備をしていました
兵が集まっています
丞相…！
兄上の命…！
ありがとう
よく教えてくれました
お気を付けて
……
この調子だ
上奏文も握り潰されているな…
竜王様の側に兄上がいる限り
打開はかなわないか…
あ――
英真さん！

お久しぶりでーす♡
蘭々ちゃん！
大きくなったねー
へっへ――
もう十四ですー
こんなとこで何してんですか！？
あ…いやえっとねー
蘭々ちゃん…
奥方様にお会いできないかな？
紫紋様に？

お話は
よくわかり
ました

けれど
私は竜王の妻です

陛下に
政治のことを
アレコレ
指図は
できませんわ
奥方様の
御迷惑に
なることは
重々承知して
おります
しかし
今となっては
陛下にお伝え
するには
奥方様に
おすがりするしか
ないのです!

まこと
ぶしつけな
お願いですが
何とぞ
何とぞ…!
英真殿!
どうか
お立ちになって

……
わかりました…
陛下に
話はしてみます

まことで
ございますか!!
ありがとう
ございます!!
和平は相手が
あってこその
お話…
南天側の
態度次第ですよ…
しかし
英真殿…

それは
わかっています!
ですから
私 自ら
南天に乗り込み
口説いてみせます!

何千万という
兵士…
何億という民の
命がかかって
います!
どうか
よしなに…

…で
羅候の女房を
送り返さにゃ
いかんのだが…
師真！
その使者として
おまえの弟
英真を
紫紋から
薦められたんだがな
どう思う？
な…
英真を？
南天へ？
わしは
いい人選だと
思いますな
英真殿なら
丞相の弟君！
名代として
充分の資格が
あると思います
孟閒も
そう思うか
それに
高位高官ではなく
民間人という所も
好都合です
あくまでも
これは政治・軍事とは
関係ないと
いうことが自然に
南天に伝わり
ましょう

英真の奴…
奥方様に
取り入ったか…
うかつだった…！
愚弟とはいえ
その程度の
使いなら
やりとげるで
しょう
よろしいかと
存じます…
じゃあ
英真に
まかすぞ
いいな
師真！
……
……
とにかく
これで厄介払いが
できるな！
ハハハハ

また会えるといいよねー♪
あっそうだ 今度は南天に遊びにいらっしゃいよ
え？
いえ…それは…
あ…そっかー
羅候と竜我戦争してるもんね
ま…そーいうことやなぁ
でも邑峻様
例え二つの国が争っていても私達三人が仲良くできたのは事実です
それは羅候様も竜王陛下も消し去れません
うん！

それじゃお元気で邑峻様
ありがとうお二人こそお元気で
残念やなーせっかく仲良しになれたのにー
そうよねー いろいろおもしろかったよ
ほれ 梵天丸もバイバイ言うとるわ
じゃあこっちもハイ
バイバーイ！

皆様！
お名残尽きないでしょうが…
そろそろ出立のお時間でございます
それじゃあ邑峻様…
邑峻様!!
ほんとにありがと…！
いろんな思い出できたよ…
英真！
……
邑峻様もお元気で…

これはあくまでも公務だ…！
決して私情ははさむな…！
わかっています兄上…
いや丞相閣下…！

ゴゴゴゴゴゴ
和平か…
それがおまえの理想ならやってみるがいい…だが俺もおまえと同じく理想を…夢を追ってきた
だが互いの夢が相容れなければ…それはどちらかの破滅にもなる
ぼくは ぼくのやり方で この銀に 平和を取りもとして みせます!!

賢明なおまえのことだ
それを回避する術を
心得ていると
信じているぞ…!!

ちょいとー
高いんじゃない
南天じゃ
そんなにしないよー

夫婦
そろって
買い物?
いいねー

イヨ!!

なら
南天に
いくんだね
さあ
買うの
買わないの!

あれ?
神楽って
どうしたんだっけ?

だ――っ
ちがうっ
つーの!!

早く
つがぬか!

は…はい

雷は公叔の出身が
西羌に近いと
いうこともあって
もっぱら
対西羌外交を
彼にまかせていた

公叔文遠
如晦らと同じく
東河の七賢人の一人で
現在 司法担当の
廷尉の官位に
ついていた

御主人様
明日は明徳殿にて
皇太后様と
西羌王様に
お会いなされます

もう
この辺で
お控えに
なった方が…

ふん!

おぬしら小者には わしの気持ちは わからぬ！

竜王の招聘により 如嗨らと東河を 後にした頃…

このわしにも 胸に秘めた 大望があった！

〝覇王を操り 天下を取る〟!!

これが わしの 念願じゃ！

だが…

わしは 命じられた仕事を こなすことに 一種の充足感すら 覚えている自分に 気付いたのじゃ

とても 覇王を操る どころではない…！

このまま一官僚として 生を終えるのか…

いや！ わしはまだ あきらめん！

操りやすい 覇王が目の前に おるではないか！

そう 西羌王 秦宮括じゃ!!

武芸において 竜王にひけを取るとは 思えん そして多くの 精兵を持つ…

奴なら このわしでも 操れるはずよ…！

よいか 公旦！

五丈の軍団と言えば 今もって銀河最強だ おまえはその栄えある 軍団長に推されたのだ その名に恥じぬ 戦いぶりを世に示せ！

兄上…

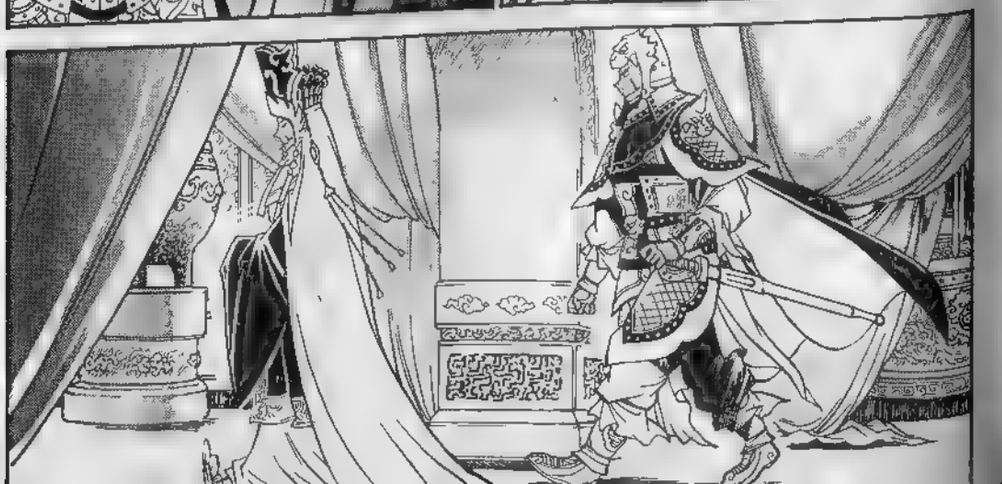
西羌王 秦宮括

この任は
わたしには
重すぎます
竜王に
今一度
かけ合って
誰か適任者を…
バカを言え!!
秦宮括の弟 秦公旦
そりゃ
俺だって
不安といや
不安だ
だが竜王が
どうしてもと
おっしゃるのだ
そのお声に
応えて
覚悟を決めて
行ってこい!

いいか
こいつはおまえに
とっていいチャンス
なんだぞ!
兵士も
選りすぐった者を
付けてやる!
そいつで
俺の不安や
今までおまえを
バカにしてた
連中の陰口を
吹き飛ばしてくれ!
はあ…
とにかく
兄上の名を
西羌の武名を
汚さぬよう
がんばります

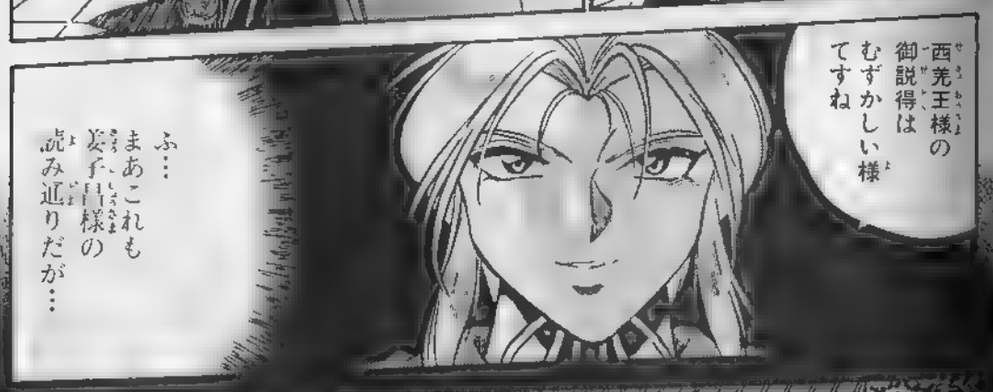
宮括!
母上!
公旦を
五丈の南征に
参加させる
つもりなのじゃな

はい
これは大変
名誉なことです
今もその
心得を公旦に
話していた
ところです
少しそなたに
話があります
奥へ
いらっしゃい!



そなたは西羌王国の誇りを捨てるつもりか！
母上 またその話ですか！
何度でも言います！
いいですか そもそも竜王は そなたの父を討った男なのですよ！
なのにそなたはよりによってその男と友誼を交したとか申し
挙げ句の果てそやつの野望の手助けをするとは…
母上！
父上の御不幸は全て玄偉の策謀です！
その玄偉をわたしは討ち果たしました！これで済んだことです！
それはそなたの思い込みじゃ！
竜王は先王殺害の罪を玄偉になすりつけただけじゃ!!
母上は竜王を誤解していらっしゃる！
一度お会いになってください 壮大な大志を抱いた一代の巨人ですぞ！
バカな
私も竜王の人となりは耳に入っておる！
兵卒上がりで血を好み 若い頃は首を獲ることしか興味を示さなかったと
若い兵士なら当然のことです！
誰だって戦功は挙げたいもの!!
自分の野望のために恩師を斬り主君の国を奪う！
後見を約束しながら智王を自害せしめた冷酷さを忘れたか！
……
恩愛に乏しく虎狼の心の持ち主じゃ
そなたは友誼というがそれは都合の悪い時は平気で人にへりくだる竜王のいつものやり方じゃぞ！
宮括や そなたは決して智王の轍を踏んではならぬ！
我が西羌王国はどこの国からの指示も受けぬ独立王国じゃ!!

案の定ですな
皇太后様
聞いておったのか
蹈庖殿
はい


西羌王様の
御説得は
むずかしい様
ですね
ふ…
まあこれも
姜子昌様の
読み通りだが…

えっ
西羌へ？
一か月前 南天 姜子昌邸

宮括！
お待ちなさい〃
そなた
勇将 精兵を
数多く持ちながら
五丈の属国に甘んじて
おるのか！
今のままでは
やがて麗しの山河も
他人の物となろう！
父上を始め
先祖の墳墓の地を
他人の土足で
踏ませてはなりませぬ〃

母上…
だれが母上に
そのようなことを
吹き込んだのか
お聞きしませんが
それがしも
西羌王国の
将来を考えて
五丈と手を
結んだのです
属国など
とんでもない！

竜王とは
未来を
分かち合えると
信じております
母上も
それがしを
信用なさって
くだされ！
ではごめん！
……

そうだ
西羌を再び反五丈に寝返らせるのだ
それをおぬしの弁舌の才で成し遂げてほしい
お言葉を返すようですが竜王と西羌王 秦宮括とは刎頸の交わりの仲と聞いております そこに楔を打ち込むのは容易ではないかと…
だが父を殺された息子と比べて夫を殺された妻は割り切れてはいまい
皇太后にこう説くのだ
「五丈の天下となれば西羌は危うい」と… この一点に絞るのだ
過去の銀河中央政府に我々辺境の民がどれだけ難儀したかその苦い想いは南天と西羌は共通であるとな
今 竜王が智を滅ぼした後だからこそ説得力があろう
！
なるほどからめ手から攻めるわけですか
中傷のコツはその人物の長所を逆に相手に短所と思わせることだ
涙をふるっての恩師との対決も裏を返せば酷薄者にもなる
恐らく皇太后は簡単に陥ちよう
そして皇太后の口から秦宮括を説得させるのだ
わかりました！ 一命を賭けてもやりとげます！
兵力差が開いた今となっては五丈軍を南天奥深く帰ろうにも帰れない場所まで引きずり込み
西羌に斉王都を襲わせる… 勝機はこの時しかない！
頼んだぞ！
ははーっ〃
蹄庖殿…
蹄庖殿!!
あ…っ！
いかがなされた 駄りこくって
ああ… 申しわけございません 少々考え事をいたしておりまして…

いかがいたそう
見ての通り宮括は頑固者じゃ聞き入れてくれぬ
子がその態度を改めぬ時は親が手本を示してやればよいのです
あなた様は皇太后王の実の母親であり後見役でもございます
王が至らぬ時はあなた様が政治を見るべきです
あの子から兵権を奪えと言うのですか
はい…そして自ら子に手本を示しなされ！
……
全てを成し終えた後王に兵権をもどせばよいのです
これも世直しのためでございます

それでは公叔殿皇太后様に拝謁のお許しをお伺いいたして参ります
うむ…
待たれい！
それでは蹄庖殿…
蹄庖

五丈に精通した者が
不可欠てすな…!!
このように
西光朝廷内で
陰謀の暗い闇が
蠢く中
秦宮孤の弟
秦公日は
軍勢を率い
斉王都に到着した
五丈は朝野を
挙げて西光の
若き武将を
歓迎したのだった…

いざ
事を起こすと
あらば南天は
西光に三隻の
帝虎級戦艦を
御用意
いたしましょう
わかりました
大事ゆえ
親子の情も
一時
忘れることに
いたしましょう
これは
よき
お覚悟
成功は
間違い
ないてしょう
お待ちあれ!
何やつだ!?
五丈の
守りは堅く
そう簡単には
まいりませぬぞ!
きさまは…!?

雷はわざわざ拝将壇を築かせると、秦公旦を壇上に登らせ百官の前で軍団長の官印と割符を渡した

この予想以上の歓迎ぶりに秦公旦が感激したのは言うまでもない

雷は秦公旦を五丈軍各軍団長に引き合わせ

また彼の許で五丈側の幹部幕僚となる二十名の武官を預けた

どの武将も雷が厳選した気鋭の武官である

何から何まで厚きご配慮感激いたします

いやいや公旦殿の出陣へのはなむけだ

五丈

……

あの智王の死はたんたんだったんだろうか…

俺を冷酷な男だと思うか？

殺戮をやめさせる殺戮は善…ということなのか…

副軍師殿！

わっ！

ガバッ

お急ぎください拝将壇にて陛下と秦将軍がお待ちかねです

えっ

あっしまった！

もうこんな時間か！

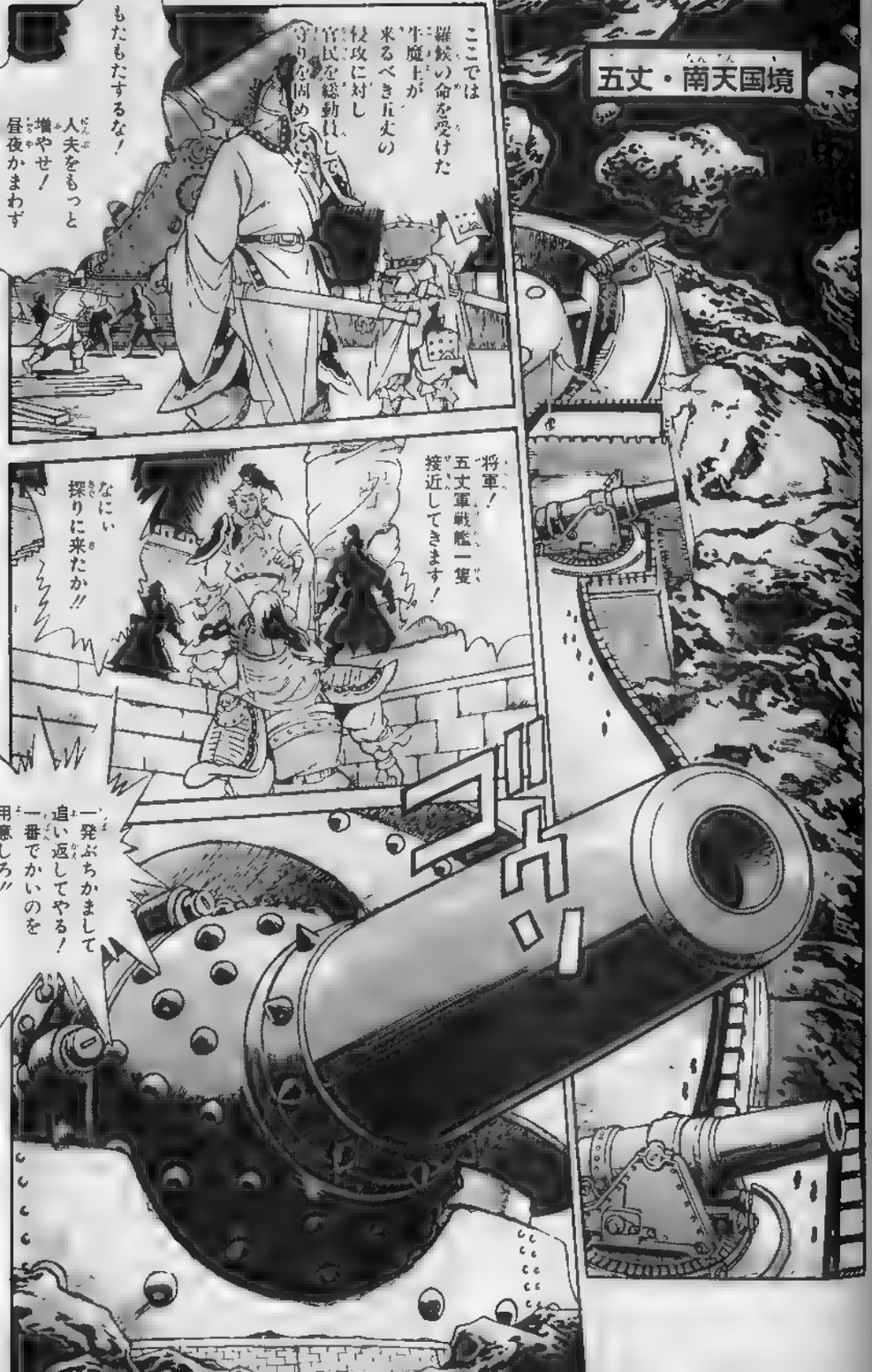
さあ
お急きを！

そうだ
もう迷ってる
時間はないんだ
戦国の時代は
間違いなく
最終章に
向かっている
賽はすでに
投げられた

竜十様の背中越しに
新しい世界を
見入るためには
今は迷ってはいられない
この戦国の時代を
終わらせられるのは
竜十様だけなんだ！
も…申しわけ
ございませ～ん！

ついつい
調べものに
熱中して
おりまして…
いいから
立て
立て！

公旦殿
紹介しよう
俺の知恵袋
副軍師の
林則嘉だ
貴殿の軍に
帯同させる
何でも相談すると
いい！
どうも…
はは～っ
心強く
思います


五丈・南天国境
ここでは
羅鉄の命を受けた
牛魔王が
来るべき五丈の
侵攻に対し
官民を総動員して
守りを固めていた
もたもたするな！
人夫をもっと
増やせ！
昼夜かまわず
働かすのだ!!
将軍！
五丈軍戦艦一隻
接近してきます！
なにい
探りに来たか!!
一発ぶちかまして
追い返してやる！
一番でかいのを
用意しろ!!

敵艦捕捉!!
距離六千五百
よういっ!!
な…なんだぁ
あれは…?
は…花火のようでございますが…
ええいっ!
どこまでも
なめた真似を!!
かまわん!
ふき飛ばせ!!

お待ちください
将軍!
敵艦の
舳先を
ごらんあれ!!
うおっ!!
お…
奥方様…!?
なにっ!?

らこ〜〜〜♡
邑峻か!?
邑峻が
生きていただと!!
そりゃ
本当か!?
はっ
牛魔将軍の
護衛隊と共に
もうすでに
城門まで
参っております!!
ここへ
来てるのか!?
きゃはは
ぎゃあああっ!!
チュ
チュ
ん〜〜ろ!!
うわあっ!!
ただいま——っ!!

御安心を
奥方様
殿は御身を謹み
奥方様の御無事を
祈っておられました
ほんと？
うれしいー♡
サンキュー
いえいえ
そうだ
見てほしいものが
あるの！
な…
何だ
何だ
これこれ
これって
おまえ
まさか…
おおー
俺の
――…!?

ただ今じゃねえ
いてーよ!!
第一
おまえ今まで
どこにいたんだ!!
ん――
五丈で
お世話に
なってたの
な…なんだとぉ!!
じゃあ
竜我んとこに
いたのか!!
うん！
何か…何か
されなかったか!?
あのスケベ野郎に!!!
なーによ
あたしが
他の男に
肌を許すと
思ってんのーっ！
いや
そうじゃ
ないが…
心配でよ…
羅候こそ
どーなのよ!?
わたしの
いなかった
半年もの間
浮気しなかったぁ?
バカ言え
誰が!!
どーかしら
半年よ
は・ん・と・し！
半年も
女抜きで
耐えられる～
うう…っ!!

あたたたた!!
バカヤロウ もちっと 丁寧に やれ!!
そうは 申されても 大将軍様
父上 辛抱ですよ
孟起! 他人事だと 思って…!!
よう 孟閣 災難だった ようだな
孟閣 ケツは大丈夫かー
おわっ!!
竜王様!? 丞相!!
士元! きさまらもか!!
父上! 皆 お見舞いに きてくださったん ですよ
は〜〜 面目ねえ…
この孟閣とも あろう男が たかが馬から 落ちたぐらいで…
その様子じゃ ちょっと 南征は無理だな
いや…! ちょっと 待ってくだせえ!
四〇七七師団から 今までずっと 竜王様と共に 戦ってきたんだ
それを この土壇場に なって…
無理するなって
おまえの 苦労は 俺が一番 知ってる まずは養生だ
そうそう
後のことは 我々にまかせとけって 果報は寝て 待てって 言うだろ
ぐ〜〜〜 ついてねえぜ …ったく!
ご安心を 父上! 父上の分も わたしが 戦って参ります!
おまえが 一番心配なんだ!! アホゥ!!

できた!!
ドッ
う〜〜〜
そうかい…
まーた
試食かよ
大丈夫!!
今度こそ
完璧よ!!
ちくしょ〜
味にうるさいなんて
言わなきゃ
よかった…!
これで
よしっ…と
ゴッ
じゃあ
お願いね
これ
姜子昌様に
渡してね!
へえ
へえ
けどよう
自分で
渡さなくても
いいのかぁ?
どの面下げて
姜子昌様に
会えって
言うのさ
こんな
生き恥さらしてる
姿で…
笑われるよ
え?
俺の嫁に
なるってのが
そんなに
生き恥か?
何でも
ねえっ!
ドスッ

また
しばらく
一人に
しちまうなぁ…
ううん
なれてるし…
それに…
それに？
次 会う時は
天下人 竜我雷として
あたしの前に
立ってるのね

ま…
そいつは相手も
あることだ
けど…
とりあえず
指切りは
しとくよ
たとえ
結果はとうあれ
生きて帰って
くるってな
……
どうした？
……
あなたが
天下を取ると
いうことは…
南天は
滅びるわけ
ですね…
この間
言ってた
和睦のことか？
今さっき
俺に天下人に
なってほしいって
言ったじゃないか
もちろん！
それが一番です!!

けど…
何か…
何か
他にも
方法が
あるんじゃ
ないかと
……
ご…ごめんなさい！
今 大事な時なのに
くだらないこと言って
でも
あたし…
優しいからな
紫紋は
邑峻の
ことだろ？
はい…
邑峻のことも
そうだけど…
今回の戦は
なぜか
胸騒ぎが…
こんな気分は
初めて…
何度も
何度も
戦に行く
あなたを
見送ったのに…
一度たりとも
不安に思ったことも
なかったのに…
雷の身に
何か
あるの…
紫紋？
絶対に
帰ってきて…
なんか
今日の紫紋
少し
変だな…
はい
ここに
控えております
俺の留守の間
紫紋を頼むぜ！
なんだか
ちょっと
不安気
なんでな
梨扇!!

ささっ！
天下取りの前祝いや！
バァーンといこ！
バァーンと!!
うへぇっ
もうすっかり
できあがってるな
まあ
関々まで
姫様〜〜

ほれ
梨扇も来い！
ぽた
ぽた
えっ
けど
わたしは…
何言うてんねん
女達の力で
雷の天下取りを
盛り上げるんや!!

十二か…

おまかせ
ください
陛下も
くれぐれも
お気を付けて…
さあ
一緒に麗羅と
梵天丸のとこに
行こう
はい！
あいつらも
待ってるぜ

雷〜〜!!
待っとったでぇ!!

え？
いや 南蛮諸部族 八十一のうち 五丈に恭順を 示した連中の数
……
少ない？
ま 他の連中は 形勢を 見てんだろ
まだまだ 羅候が 恐ろしいんだ
十二でも ないよりマシさ 食糧調達が 少しは楽になる
三楽斎の 苦労も 和らぐさ
信用できるの？
ぜーんぜん！
当分は 信用しているフリを しといてやるよ
そいつを 本当の信用に 持っていくには 時間が かかるしな
じゃあ 食糧調達は 徴発じゃなくて 買い取りに すべきね
ああ そう傳格らに 命じてある

…にしても 女と寝た後に する話じゃ ねえな
もちっと 艶っぽいのを しない？
明日も 早いんでしょ
もう 寝たら？ 丞相様
ふぁ…
お休み
ちぇっ
ゴロン
まいったか 一人で 飲み直すと するか…
あなた 南天に行った 弟さんの話 しないわね
どうして？

あの子 本気で和睦を考えているわ
そんな時にあなた達が南天に攻めて行ったら…
……
その結果は火を見るより明らかだ
平気？
……
答えなきゃいかんか？
とりあっはっはっ!!

ちっ面白くねぇ！
なーにむくれてるのよあたしが帰ってきてうれしくないの？
竜我のことだ！
あんの野郎…
俺に貸しを作ったつもりでいやがる！
だ～～～っうるせぇ!!大体おまえが身重のくせに戦についてくるからいけねえんだ!!
なによーっ!!
ふーん男ってそーいうこと気にするの？
あ、ご主人様お早いお帰りで
ふふわしはもう歳しゃ殿らに合わせては飲めぬわ！
中座してまいった…
その実は…

何？
わしに客じゃと
こんな
夜更けにか
はあ…
とても大事な
お話かと…
ほー
おぬしか
五丈の使者殿
お待ちして
おりました
龍緒様
昼間の
礼なら
よいぞ
…ったく
大したお方じゃ
堂々と憎き
五丈の軍師の弟と
名乗るとはのう…
殿は気性の
激しいお方じゃ
わしや奥方様が
取り成さねば
その首 落ちて
おったぞ
わたしは腹蔵なき
話がしたくて
南天に参ったのです
名を隠すようでは
始まりませぬ
…して
このわしに
何の用かのう
龍緒様は
宰相で
あらせられると
同時に
南天の中では
数少ない
羅候様に
直言できるお方
その言は
宮中内でも
重きを
なしましょう

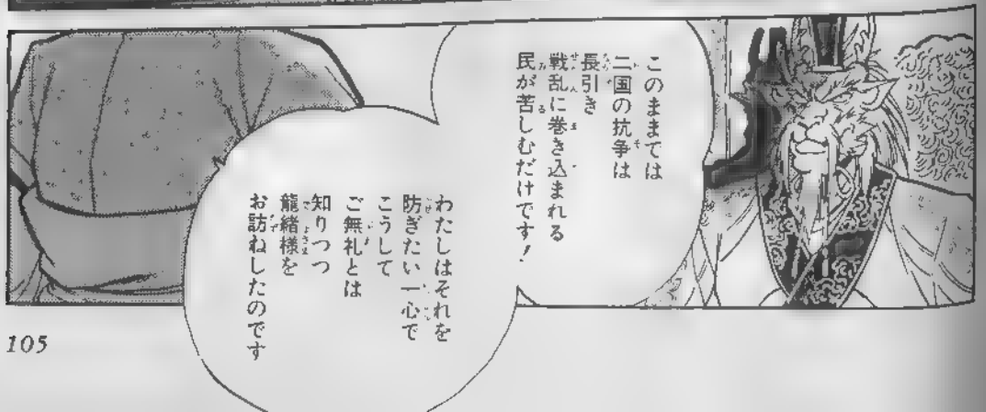
龍緒様！
どうか
南天と五丈の
和睦…
そして二国共存を
ご検討くだされ!!
……
二国共存
とな…!!

ついに
五丈軍は
六百万の軍勢にて
第二次南征を
開始した!!
次回に続く!!

そして
その先の
未来へ…!!
全軍
南へ!!
出陣だ!!
目指すは
南天連合の解体!!

和睦と申しても
言うは易し
成すのははなはだ
難しい
はい
たしかに…
現に五丈は
今やこの南天に
攻めこもうと
しておるではないか

しかしわたしは
今の五丈に
南天全土を
征服する力は
ないと思います
それは
南天もしかり!


このままでは
二国の抗争は
長引き
戦乱に巻き込まれる
民が苦しむだけです!
わたしはそれを
防ぎたい一心で
こうして
ご無礼とは
知りつつ
龍緒様を
お訪ねしたのです

英真は
懸命に龍緒を
口説いた
国家の生い立ちや
文化の違いなど
一つの国が全銀河を
統一するのは不可能だと…
無益な戦が続けば
国は痩せ 民が難渋する
だけである
なれば天下を二分し
互いに独立国として
認め合い
交易や文化交流を深め
共に栄えようという
一国共存の道が一番である
これが英真の考えだった

英真の言葉を
龍緒はだまって
聞いていた

するどい眼光を
英真に浴びせ
その人物を
推し量っていたのだ

……

百二十年にも渡る
宮仕えで養ってきた
眼力である

幸和として
事の善し悪しの判定
人物を見抜く力は
群を抜いていた

ふむぅ…

どうやら
本心のようだが…

今の状況で
和睦など
非現実的とは
思わぬのか？

それとも
それにも気付かぬ
楽天家かのう…

お願いします
龍緒様！

いや
ご意見は
拝聴いたした
まことに
ごもっともだが

余りにも
世を知らぬ
理想論に
過ぎぬとは
思わぬか

和睦とは
決して対等の
立場になる
ことではないのじゃ

それは力のある方が
弱い方に無理に
飲ませる休戦の
名を変えた姿じゃ

過去の例を見よ

臣下の礼とまでは
言わぬが
兄・弟の関係となり
それに応じた
巨額の歳貢が
課せられる

例え一時的な
平和が訪れようと
それによって喪われる
国力は次の戦に
向けられるのが
世の常じゃ

おぬしは五丈国丞相
大覚屋師真の弟であり
竜王の経済顧問じゃ

英真殿は
竜王の意思で
動いておるのか

心同じく
する者が
五丈に
おるのか？

いえ…
これはわたくしめ
だけの考えです

そうて
あろうのう…

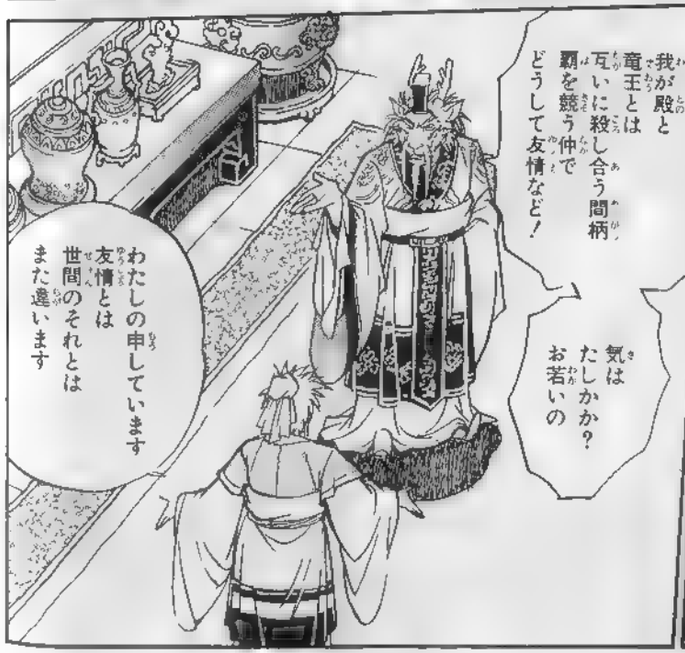
今の五丈の
勢いなら
そちのような
意見に
耳を貸す者は
おるまい

ですからわたしは
奥方の紫紋様や
邑峻様に
お話を聞いて
いただきました
お二人とも
両王の耳に
入れてくれるとの
ご返事でした

ほう
いきなり頂上より
口説き落とす
つもりかのう
殿も竜王も
女子の頼みなら
首を縦にふると
でも？

わたくしは今の
二人の王なら
対等の和睦は
可能だと思います
お二人の〝友情〟に
賭けたいと思います！

ゆう…
わははは！
友情とな!?
こりゃ
愉快じゃ


我が殿と
竜王とは
互いに殺し合う間柄
覇を競う仲で
どうして友情など！
気は
たしかか？
お若いの
わたしの申しています
友情とは
世間のそれとは
また違います

お互いの力を
認め合うこと！
そして国造りを
戦という形ではなく
競い合える
仲だと申して
いるのです

もし今
ここで若い
両国王が互いに
兵を退き 和を講じれば
その友誼は
末永く続き
お生まれになったばかりの
お世継ぎにも
引き継がれましょう
またご夫人方も
短い間でしたが
よくよく親しまれ
再会を約したと
聞いております

逆に申しあげれば
今が最後の
和睦の機会で
ございます…!!
今！ この時機を逃せば
南天の民の屍は
山野を埋め尽くし
血は河と流れましょうぞ！

どうか
宰相として
羅候様の
説得に力を
お貸しください！
お願いいたします!!
若いだけでは
ないのう…
脅し文句まで
つけおったか

第一鎮
前督丞相司馬
鐘士元！
第二鎮
前軍都督車騎将軍
項武！
第三鎮
右軍領兵使関内候
姚文！
第四鎮
中監揚武将軍
呂朱！
第五鎮
中参軍前将軍
鐘才！
第六鎮
軍師中郎将
林則嘉！

第七鎮
撫戒軍飛衛将軍
秦公旦！
第八鎮
右将軍都亭候
孟起！
第九鎮
左将軍中監使
雲海！
第十鎮
偏将軍玄都候
装伯！

以上だ！
如晦は
中護軍大都督として
智嚢の全権を
まかせる
陳群には
荷駄奉行を命じる

皆 それぞれの
役目を守り
進んでは勇を奮い
退いては固く守れ！
もはや
羅候に往年の
力なし
諸君らは見事
手柄を立て
その名を末代まで
残されよ！
はっ!!

まずは軍を
五手に分け
この五道より
南天に進撃する
岳飛道
蔡道
徽道
翔府道
そして
智領からの
智道だ
士元！
そちは鐘才と共に
最右翼 岳飛道を
進め！
丁管墾・劉家屯を
落とし
堅城である
九連城に迫れ
はっ
姚文は呂朱と共に
蔡道より
英樹溝・東楊厨溝と
進み 石門嶺に出よ
近くの小城は
無視しろ
はは！
孟起！
おぬしは徽道だ
ここは大した
拠点はない
一気に駆け抜け
姚文らの
側面を援護せよ
分かりました

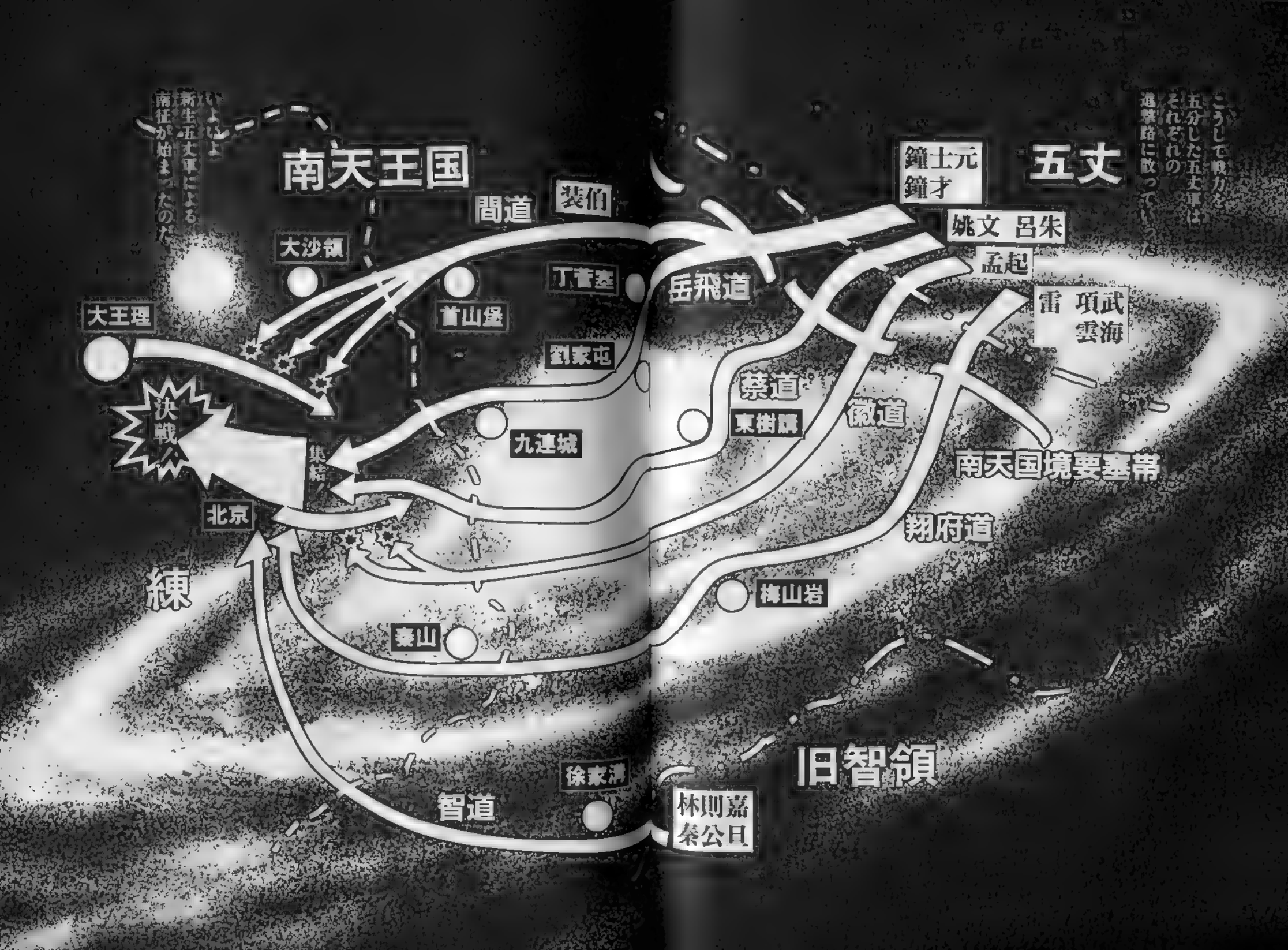
装伯は間道を通り
首山堡の要害を
突破したら
西に進路をとり
大沙領に抜けよ
士元軍を
迎え撃つ敵後軍を
牽制するのだ！
はは っ
公旦殿
林と共に
智道より
進んでいただく
徐家溝さえ
落とせば
何という道ではない
ただ敵の退路にも
当たる道だ
敗残兵を収容しつつ
進撃してくだされ
混成軍団の
初陣だ
よろしく！
分かりました
ご期待に
そえるよう
がんばります！
各々方は
五道より進み
南天北道郡の要衝
北京に集結せよ
南天首都大王里まで
ほぼ一本道
進撃を妨げる
要害もない

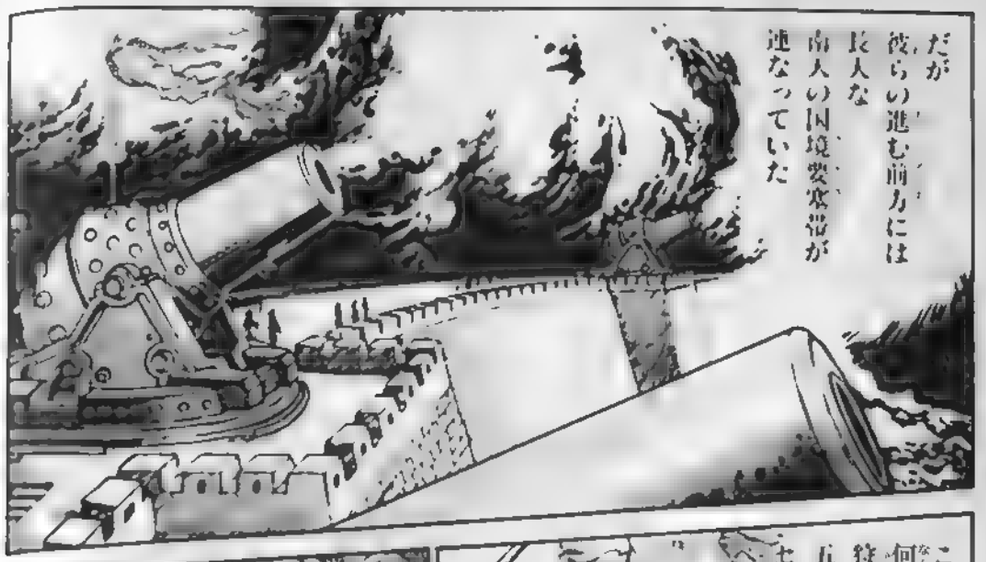
南天は
現在は戦力を
回復中だ
緒戦は大した
抵抗も受けんだろう
連中は遅滞作戦が
主で 時間を稼ぎ
会戦は戦力回復まで
極力避けるハラだ
だが
北京まで進めば
さすがに決戦に
望まねば
なるまい
我々も
戦力を集結し
その決戦に挑む！
そして
この決戦に勝てば
いよいよ…

天下統一への
道が開く!!

林！
はい
公旦を頼むぞ
おまえが頼りだ
おまかせください
それと…
陛下…

これをお返しいたします！
もう迷わないな…！
はい!!


南天王国
五丈
元士
鐘才
鐘
姚文 呂朱
孟起
雷 項武
雲海
間道
装伯
大沙領
丁青森
岳飛道
大王理
首山堡
劉家屯
決戦
集結
北京
九連城
禁道
東街嶺
徽道
南天国境要塞帯
翔府道
梅山岩
練
泰山
旧智領
徐家津
智道
林則嘉
秦公日
こうして戦力を五分した五丈軍はそれぞれの進撃路に散っていった
いよいよ新生五丈軍による南征が始まったのだ



だが
彼らの進む前方には
長大な
南人の国境要塞帯が
連なっていた

ここには
何百万という住民を
狩り出し
五十億樽の
セメントを使った
ベトン製城塞と

各種
重カノン砲を
装備した要塞群が
五十里の間隔で
築かれていたのだ

指揮する将は
南人軍宿将で
羅候の伝説的
騎馬将軍「項延」である

ここは「項延」の
本営がある
最強の要塞である

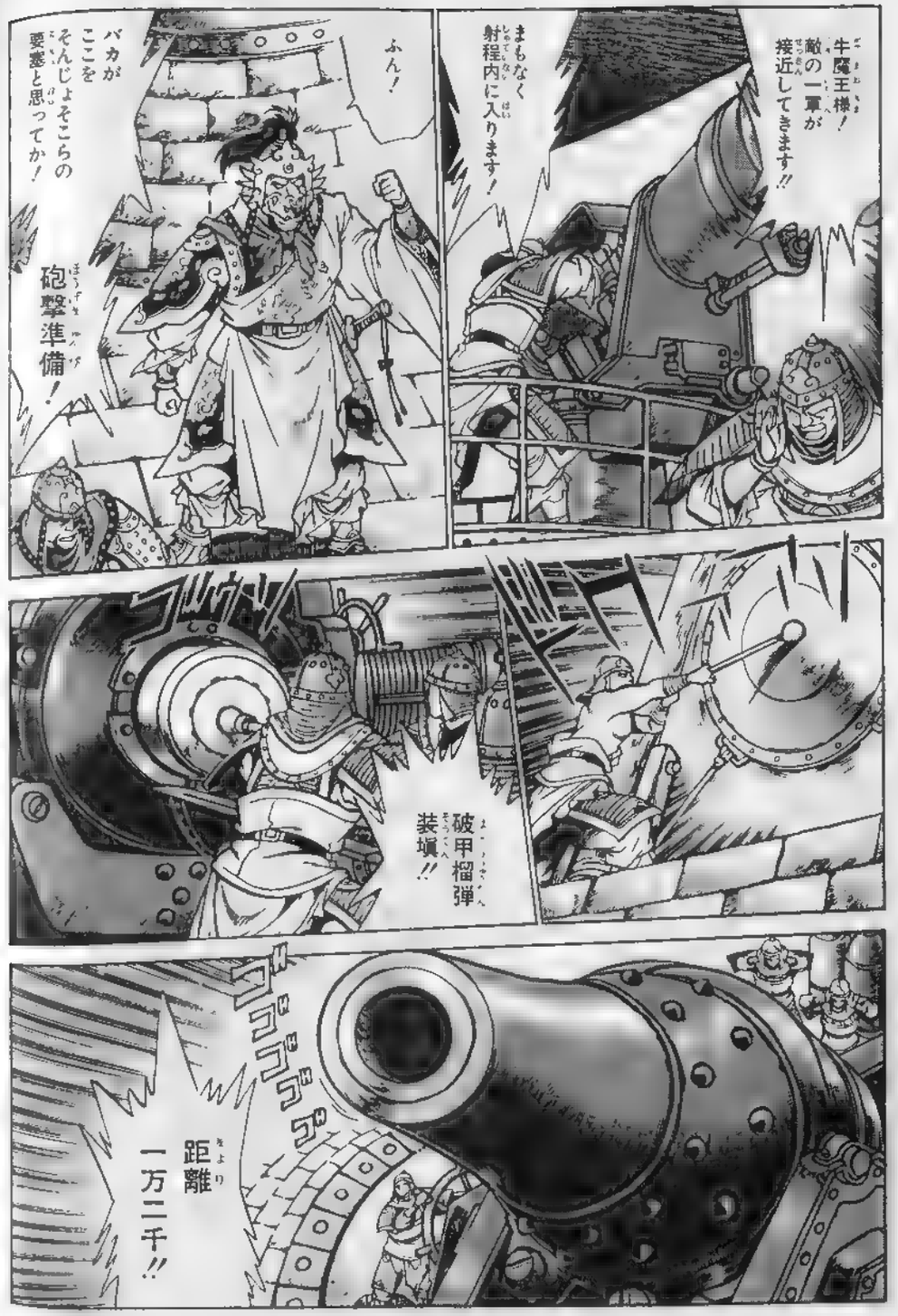
うーん…
こりゃまた
堅固なやつを
造ってくれたなあ

こーいうのを
見ると
南天の底力を
感じるな

雷は本陣として
項武・雲海両将軍を従え
期呼道に進み
この国境要塞帯の要
蛮子営砲台群と
向かい合っていた

軍師！敵を褒めてばかりじゃ話になりませんぜ！
まあな
防衛拠点ではなく文字どおり線…防衛ラインとして機能できるよう結合されているわけだ
連中はここでしばらく我々を釘付けできると思っているようだな
ここは俺にやらせてくだせえ！
あんな貝殻にこもっている連中は火かけてあぶり出してやる！
うむ
まあいいだろうやってみろ
各々の砲台は互いの死角をなくすように配備されているし…
発射速度の遅い重砲を臨時保塁の中・小口径砲が巧みに援護できるよう工夫されている
あのベトン製城塞はこっちの主砲弾にも耐えうるだろう
小艦隊も随所にあって戦力に柔軟さを加えているな

野郎ども性根をいれて行け!!
南天の門を蹴やぶるぜ!!
堅固な要塞だ
例え項武でも一筋縄で行くとは思えん
敵の火力を拝見しよう


牛魔王様！敵の一軍が接近してきます!!
まもなく射程内に入ります！
ふん！
バカがここをそんじょそこらの要塞と思ってか！
砲撃準備！
破甲榴弾装填!!
ゴゴゴゴゴ
距離一万二千!!

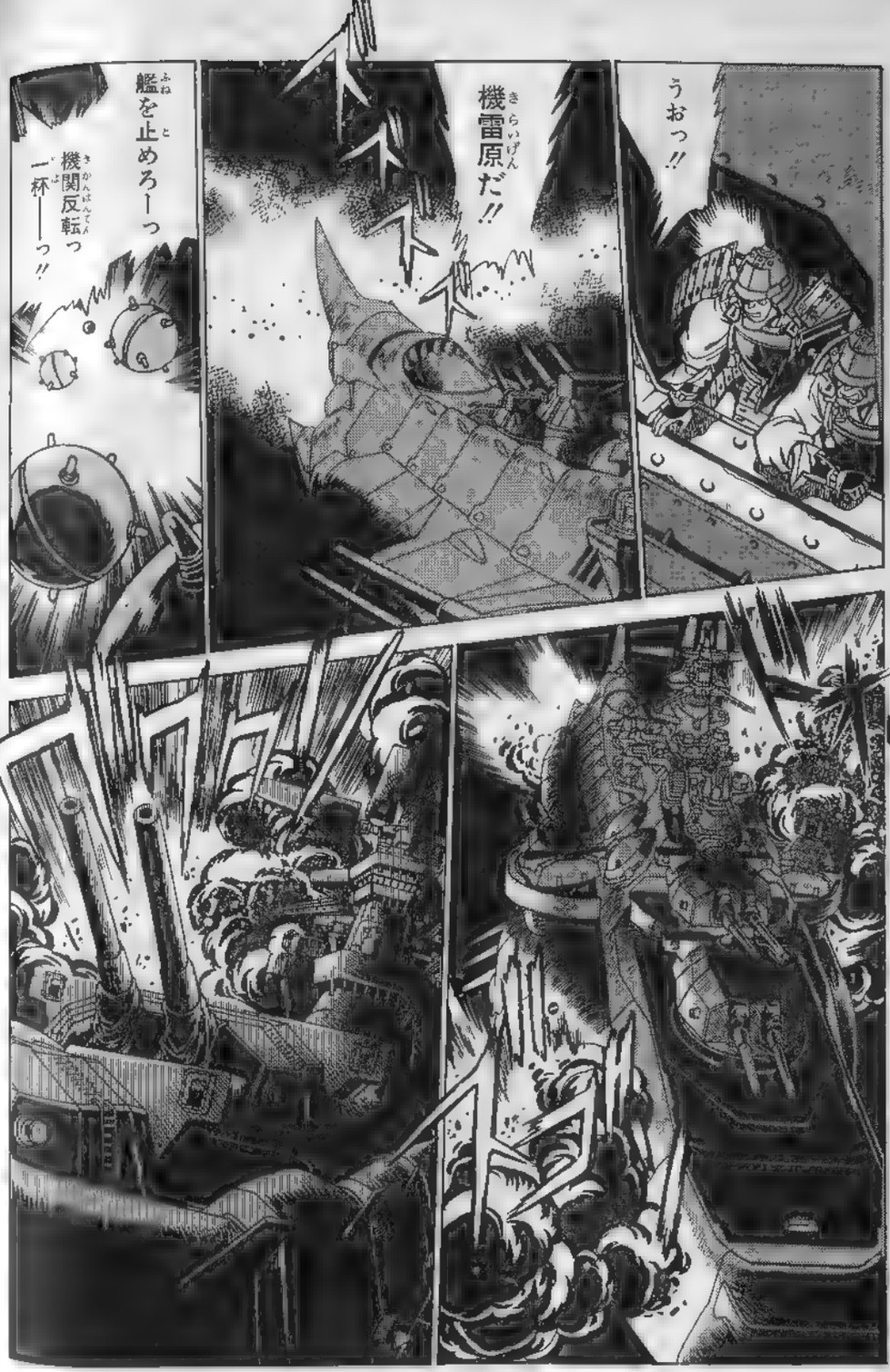
全砲門ひらけーっ
てぇーっ!!
ドオ

バカ野郎！
何してる!!
こっちも
撃ち返せ
――っ!!
ゴ!!

うおっ!?

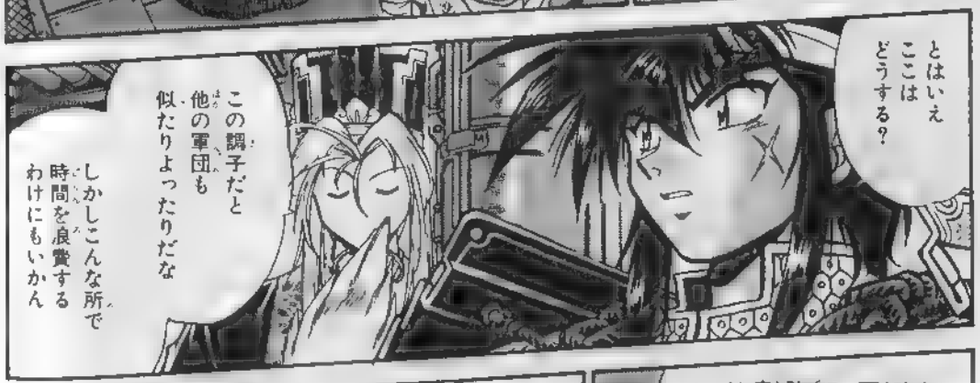
ズゴオ
だ…だめです
まだ射程外です
まだ届きません!!
なら
届くとこまで
近づけ!!

左だ!
左の方が
手薄だ!!
回りこめ!!

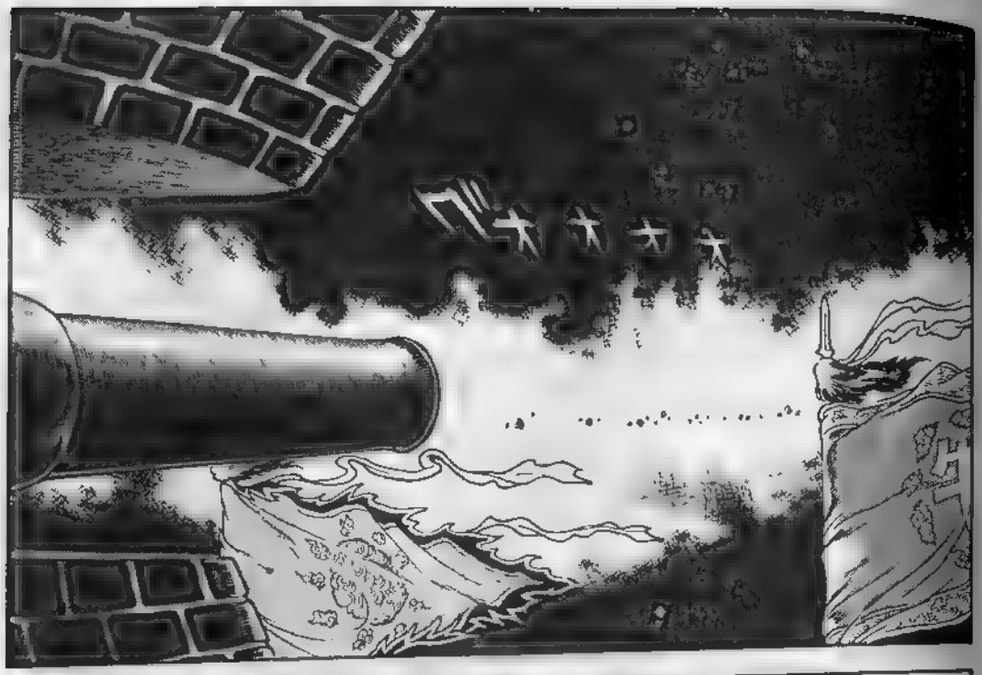

うおっ!!
機雷原だ!!
艦を止めろーっ
機関反転っ
一杯——っ!!

ズドドドーン
ドドーン
だめだな
これは…
ああ
項武に
退がるように
伝えろ
わはははは!!
何度来ても
同じことよ!!
ハチの巣に
してくれるわ!!

ブス…
スイマセン…
大口叩いたのに
この様で…
いや
あの要塞相手では
致し方ない
兵を休ませよ


とはいえ
ここは
どうする？
この調子だと
他の軍団も
似たりよったりだな
しかしこんな所で
時間を浪費する
わけにもいかん

ここ正面の
砲台は
国境要塞線の要だ
ここを撃ち抜けば
防衛線は
連絡を断たれ
ガタガタになる
アレを…
使えるうちに
使ってしまおう


ゴオオオオ

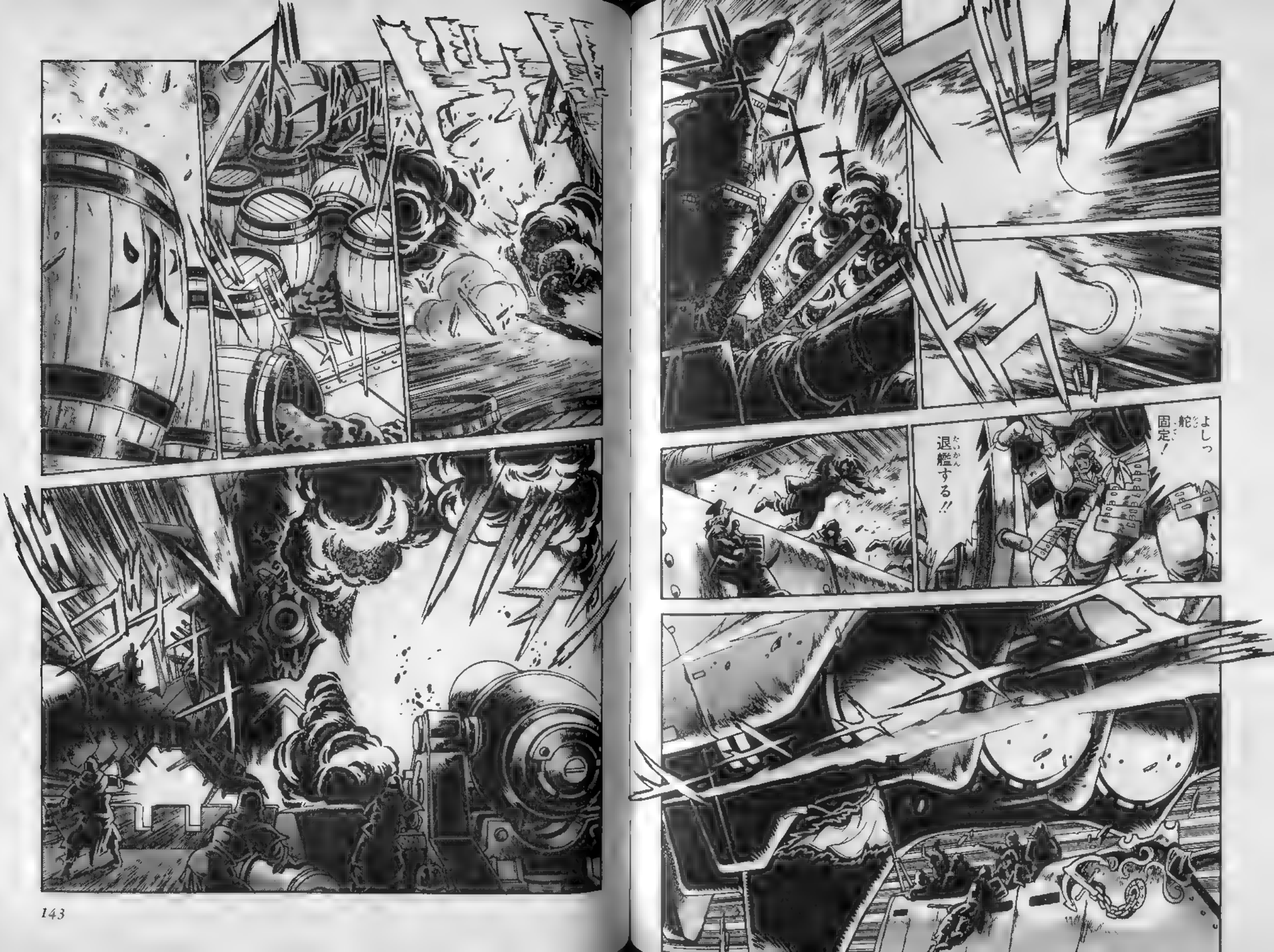
将軍！
また五丈軍が
迫ってきます！
なんだとぉ!?

懲りない
連中めが!!
南天

何のつもりだ
あれは？
あんな所じゃ
全くここに
届かんぞ！
おじけづいたのでしょう
連中は
近寄ることも
できません

こいつは
発煙弾だ!!
やつら
煙幕を張って
何か仕掛けて
きやがるぞ!!
全砲台に
警戒信号を!!
ゴゴゴゴゴゴゴ…
!!
このエンジン
音は…
五丈軍の
艦ではない…
しかし
聞きなれた音だ
まさか…

帝虎級戦艦だ!!
ええい
撃て!!
うてぇーっ!!
し…しかし
わからんのか!!
やつら
ぶん取った
帝虎級戦艦を
使っているのだ!!
近づけるな!!
ドン
ドン
だ…だめです!
撃ち破れません!!
撃ち続けろ!!


よしっ
舵(かじ)
固定(こてい)!
退艦(たいかん)する!!

うおおお

うわっ
だめだ！
止められない！
ぶつかって
くるぞ!!
こらあっ!!
逃げるな！
持ち場に
もどれ!!
将軍
お逃げください！
もうだめです!!

やったな！
おお〜〜

ぎゃあっ!!

守備司令官を失った各道の要塞はたちまち戦意を失い次々と陥落した
こうして五丈軍は堅固な国境要塞群を易々と突破し南天の領土に雪崩れこんでいった

何かもったいないっスね——
まああんなデカイ廃品いつまでも持って歩く気はないからな
処分するのにちょうどよかった
近海の砦にも白旗が上がりました!
腰を抜かしたようだな
これで他の四道も楽になる
よし進撃だ!!

英真殿
今日はもう遅い
年寄りには
夜更かしは
禁物である
しばらく我が屋敷に
逗留なさるがよい
そ…
それでは…!!
わしも
少し考えて
みよう
ありがとう
ございます!!
勘違いなされるな
わしは考えると
言っただけじゃ
場合によっては
おぬしを刑場に
突き出すやも
しれぬ
いらぬ事を
吹き込む
罪人としてな
はい
それでも
けっこうです

おぬしの話
他の二三人にも
聞いてもらおうと
思う
よろしいかな
はいっ!!
やった…!
これで
和睦に一歩
踏み出せた…!
さあ疲れたで
あろう
部屋を
用意させてある
休まれよ
かたじけのう
ございます
ご主人様!
何じゃ!
ただ今
早馬が参りまして
ただちに参内せよとの
ご命令です!
ふう…
わしはもう飲めぬと
いうのに…
いや
うちの殿は
いささか
強引でのう
そ…
そうでは
ございません!
五丈軍が…

野郎ども!!
よく聞けいっ!!!
五丈の連中が
図々しく
我が南天に
乗り込んで
きやがった!!!

国境を
突破し
南天領に
侵入を始めました!!

この南天に
土足で踏み込んだ
やつらは許せねぇ!!
身の程知らずの
バカ者ともを
皆殺しにしてやる!!
全軍
出陣だ!!
お待ち
ください!
と、
大将軍!
姜子昌様!
五丈は大国
しかも竜王自ら
率いての侵攻です
軽挙盲動は
禁物ですぞ!
姜子昌!
雷か…竜我か
自ら乗り込んで
きてんだぞ!!
迎え討たなくて
どうする!!
殿自ら
迎え討たれるのは
大いにけっこう!
しかし
今はその時機では
ございません!
なにいっ!!

国境の諸部族に去就の自由をお与え下さい
逃げるもよし五丈に降るもよし
それについては我々は関与しないし罪にも問わぬと…
そしてここには家族や同胞が気になる者もおろう
今から一時灯りを消す
その間に退出せよ！国許に帰るのも自由だ
ただしこれが最期の機会だ！今後はいかなる理由があっても脱落は許さぬ！
新たな離脱者には地の果てまで追って抹殺する！腹を決めよ！
……

じゃあいつ戦えってんだ!?現に牛魔王は殺され国境の要衝は次々と落とされてるんだろ!!
ええっ!!
まずは国境地帯は放棄するようお奨めします！
な…っ!?
大将軍！何ら手を打たずに同胞を見捨てるとおっしゃるか!!
ここにはそれら部族の長もいるんだぞ！そんなことで戦えるか!!
部屋の灯りを消せい！
は？
ははっ？
な…何のつもりだこれは…
殿！小は捨て大を生かす時です

殿！
脱落者は
一人も
おりませぬ！
そうか!!
これで
この姜子昌も
五丈撃滅の策を
安心して上表
できます

ごらんください
現在五丈軍は
五道より侵入を
始めました
敵軍師
大覚屋師真は
我々が戦力を
温存すると
見抜いております
故に進軍は
もっぱら諸部族の
人心の掌握に
つとめるでしょう
彼らにとって
未知の南天…
我々が六紋海で
被った失策を
真似る気は
ありますまい
諸部族を手なずけ
後方を固め
悠々この大王理に
迫るハラでござる
この近海で
五軍を集結させ
迎え討つ我が軍と
会戦におよび
討ち破った後
大王理を落とす
これが
師真の
肖写真で
ございます
姜子昌！
そんな縁起でもねえ
解説はもういい！
五丈のやつらを
皆殺しにする
爽快な策を
早く聞かせろって!!
はっ！

まずは大王理をも放棄します！

なにいっ！ ここを明け渡すだとぉっ!?

この俺様の城に竜我が土足で上がってくるのを見逃せというのかよ!!

だめだ！ そんなのは絶対にだめだ!!

ここ大王理は金銀財宝も多く五丈の兵士どもは略奪に走り竜王らも勝利に酔いしばらくは足止めしましょう

その間に西羌軍を動かし逆に五丈の首都を襲わせます！

西羌だと？

ふんっ！ 簡単に言うが西羌軍が俺達の思う通り動いてくれるのか!?

すでに蹄庖を棄宮括の母親皇太后の許に遣わしました

懐柔に成功したとの連絡を受けています

凶事の首都に駆けつけたいが無傷の我が軍に追い討ちをかけられる危険もある五丈軍は退くにも退けず

かといって会戦に訴えようにも我が軍は応じない

五丈不利の情報が伝われば国境地帯の諸部族も態度を変え五丈軍の後方を遮断しましょう

彼らとて今一度殿のお顔を拝するには手柄の一つも立てねばなりませんからな

その折にはよくよく彼らを賞していただきとうございます

そりゃもちろんだ！ 俺はでっかい懐の持ち主だからな！

こうして五丈軍を南天領土深くに袋のネズミとし

最後の仕上げとして五丈軍内にいる西羌軍に皇太后の勅命をもって反乱を起こさせる…

これで五丈軍は四分五裂です

我々はその崩壊する五丈軍に襲いかかり完膚なきまで叩きつぶすのです

それは
壮大な戦略だった…
読者の中には
対狼刃戦で
師真のとった策を
思い出した人も
いるだろう

あの時も
師真は局地で
敗戦した
雷に対して
大局で狼刃を
討ち倒すような
策を授けたのである

今度の
姜子昂の策は
その時の何倍もの
スケールである

わたしの
この策…
ご承諾して
いただけますか
殿!!

おうっ!!
よくはわからんが
俺が竜我を
倒せるよう仕向けて
くれりゃ文句はねえ!

諸将よ!
殿のご承諾を
得た!
これより
このわたしの策に
従って
兵を動かすのだ!

オオッ!!

だが南天の
主要街道とはいえ
盆地とも呼ばれる
南天での進軍は
想像以上に
難航した
まずは
整備の
行き届いていない
街道そのもの
間隔を
大きくとれ！
艦尾灯
点灯！
方位を
見失うな！
…ったく
石ころぐらい
どけておけよな！

そして
急変する天候
その予測は
むずかしく
規模も北天とは
比べ様もないくらい
大きなものだった
手透きの
者も もっと
見張りに出せ！
まるで前が
見えん！
命綱を
忘れるな!!
減速!!
そして
五丈軍の兵士を
最も悩ませたのは…

そこここに
生息する
巨大海獣である
商いのためなら
どこへでも行くと
いわれた
南京楼商人の
情報網を利用していた
師真にとっても
まだまだ南天は
大路木踏の
不毛の地であった
それでいて
各々軍団をまかせた将達の
進軍は
雷たち本隊の
出馬を乞う必要もなく
滞りなく遂行されていた

雷が最も信頼していたのか
鐘士元・姚文の両将二人であろう
雷の旗上げ時からの古参の将である彼らはまさしく百戦錬磨の勇将ハ
戦えば勝ち攻めれば落とすと
次々と進軍路に割拠していた諸部族を制圧していった
若い将達も彼らに負けてはいない
徽道を進む孟起軍は速戦速攻!
その果敢な戦いぶりに南人軍はクモの子を散らすかのように霧散した
一方間道を抜ける装伯軍は孟起とは逆に拠点な戦法で勝利を収めていった
首山堡要塞では補給隊を襲わせることで敵軍を引きずり出して万全の状態で迎え撃つことで落とし主要戦線である鐘士元軍を支え
後方に集結しつつあった敵後軍を討ち破り莫大な軍需物資を差し押さえた
だがやはり特筆すべきは智道より進んだ五丈原西羌混成軍団である秦公日軍の活躍であろう

智領をがっちり
掌握している
如晦から
充分な補給を
受けることが
できた彼らの進撃は
すさまじかった

初めて華々しい
最前線の指揮を
まかされ感無量の
新人指揮官公日に対して

林は
公日を常に
立てる形で
補佐をした

そして両国の
幕僚達の
伸を取り持ち

こうして
最初の頃に多発していた
トラブルも徐々に
姿を消していったのだった

北夷兵と
西羌兵との和解を
積極的に進めた

徐家溝
彼らの第一の目的は
対智最前線であった
徐家溝である

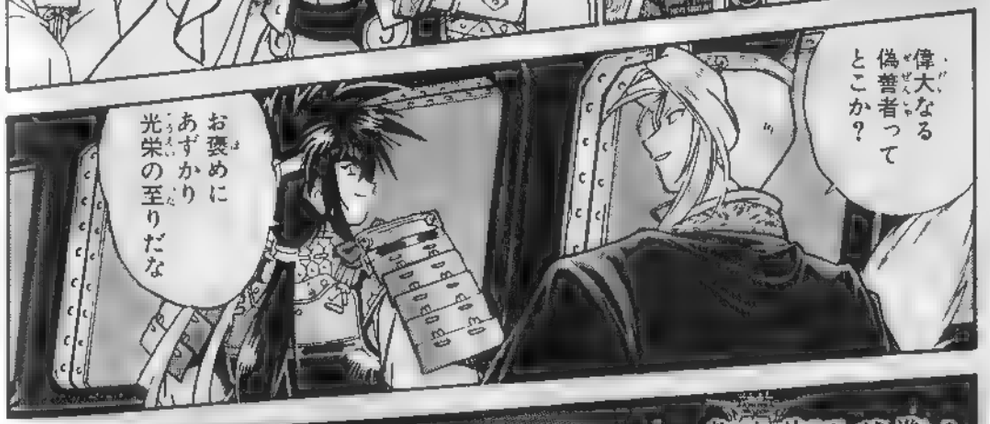
ここには
王族の一人である
羅真義が守っていた
中央の撤退命令を
拒否した彼は
さすが
よく守った

進めーっ!!

奉

こうして
南天侵攻緒戦中
最大の戦いになった
徐家溝の攻防戦は
混成軍団の大勝利となった
感激だ！
こんなに勝利の後の
酒がうまいとは…！
おめでとう
ございます
将軍！
林はその日のうちに
勝利の経過を
詳しく書いた
手紙を雷の許に
送った

雷は
この手紙に感謝文を
添える形で
遠く西羌の
桑宮括に届けた
弟の意外な健闘ぶりに
桑宮括が驚き喜んだのは
いうまでもない
その喜びの中では
弟を人質に取り
西羌軍から精鋭を
引き抜くという
雷の冷徹な計算は
影すら見出すことが
できなかったのである


偉大なる
偽善者って
とこか？
お褒めに
あずかり
光栄の至りだな

こうして
進撃の手を
ゆるめない
五丈車であったが
決して南大を
攻め滅ぼそうという
考えはなかった

抵抗せず開城した
部族は
その降伏を受け入れ
講和を結び
自軍に引き入れていった
主要戦力を
決戦に投入する限り
補給線の保護などの
非主戦力は
どうしても必要
だったのだ

各将はもとより
雷の本陣には
和を請う諸部族の
使者で賑わった
この賑わいの理由である
雑候の国境地帯放棄策も

だが雷は
知っていた
それが作り笑いで
世辞をいう彼らの
本心ではないことを
彼らが単に
雑候から雷に
乗り換えた
だけであることを
そして戦局によっては
再び乗り換えられることも
ありえることを…

それは
雷率いる
本陣の進撃路にある
一つの郡で起きた
県令様！

こ…これは
どうしたことです！
竜王との
講和条件にあった
武装解除の約束を
それこそ舌の根も
乾かぬうちに
破られるとは…！

こんなことが
竜王の耳に入ったら
ただでは
済みませぬぞ!!

だまれ！

竜王の面前では
ああもいったが
まだ竜王と
南天王の決着が
ついたわけでは
ない！

もし南天王が
勝てば今度は
我々はどうなる!!
それこそ皆殺しに
されてしまうぞ！

しかし
去就については
自由にする
罪には問わぬとの
通達がまいったでは
ございませんか！

あのような
書状など
当てになるものか…幸い五丈軍は
はるか遠くに
行ってしまっている
案ずることはない！

大国の間で揺れる
弱小部族の悲哀を
地で行く彼らで
あったが…

羅候にも
いい顔をしようと
後続の五丈補給船に
事もあろうに
発砲したのである

それを知った
雷の行動は
素早かった

たちまち
鎮圧部隊が
送られ

砲台を
ことごとく
破壊し

県令でもあった
部族長以下
全住民を
捕らえたのだった

おゆ…！
雷は諸部族との講和に関して約束を破ることには肖尾一貫して厳しく臨んだ
そこには何のためらいもない
約束を守るということが風俗習慣が違う異民族との最低不可欠のルールだと信じていたからだ

また会ったな
ひいいっお助けを…!!
部下がやったことでございますわたしは何も…何も存しあげません!!

ザッ

俺はおまえ達に何一つ要求していない城をよこせだ女をよこせだともな！
ただ一つあるとすれば俺との約束を守れということだ!!

もちろん約束の重さをどう解釈するかは各人の自由だ
決まっているとすれば

それは俺との約束を破った時の処罰だ！
お許しを…お許しを…

このようにして
国境諸部族を制圧し
補給路を確保したことで
楽毅の後方支援は
本格化する
武器・弾薬・兵糧を
満載した大船団が
南天への道を
何千里と
埋め尽くしたのであった

それらの
積み荷の中に
楽毅より
師真に届けられる
書簡がある
外では軍師将軍
内では丞相である
師真に裁断を求める
案件などが
書き記してあった
忙しい
軍務の合間に
師真はそれに目を
通すのである
！

英真殿は
予定帰国日を
ひと月余り過ぎても
未だもどらず…
ふう…
最悪だな…

おいっ 師真 いるか？
入るぞーっ
!!
ん？
何してんだ おまえ？
なんだか コゲ臭い ような…
いや ちょっと 書類の整理をな…

それより 何の用だ？
怖い夢を見た なんていうなよ
バカ！ そんなんじゃねえ これだ 紫紋の手紙だ
ほ——う いいねえ 奥方様からの 愛の便りか？ あなた 早く 帰ってきてって
ちゃかすなよ！
ここに こうあるんだ
「英真が帰って こないので 心配だ」と…
そうなのか？
ああ そのことか…
我が愚弟のことで 奥方様に心配かけて 申し訳ない
じゃあ まだ南天に いるのか？
雷！
おまえも 見ただろ
南天の海は 天候が不順なんだ きっとどこかの 港で嵐が 収まるのを 待ってるのさ

何で
俺の目を見ない!!!
そうか…
そうだな
そりゃ
ありえるな
とにかく
案ずることはないさ
いや
すまんな
わざわざ
師真!
ん…
なんだ?
何か俺に
隠しているのか…?
……
う——
仕事の
しすぎか…
頭痛がする
いや
できる男は
つらいわ
ハハハ…
それじゃ
お休み
ああ…
……

うむ…
これほどまで
やってくれるとは…
正直いって
信じられん！
そうだ
母上にも
この手紙を
お見せしよう！
きっと
お喜びになるに
違いない！
おいっ
母上は
どこだ!?
はい
明徳殿にて…
母上！
母上！
母上
ごらん差し上げたい
手紙がございます！
公旦の
ことが詳しく
書いてありますぞ
!!

国王様
竜王様より
親書が届いて
おりまする
おおっ
早く見せよ!!
また
公旦様が
ご活躍なされ
ましたか？
おう その通りだ…！
見てみよ！ ここを!!
敵の大将格と
渡り合って
見事 倒したとある！
西羌王国

母上…
それに…
荘架に
横車も…
まずは
拝礼をなさい
宮括や！
は…
はは…！
秦宮括
拝謁申し上げます

宮括や
わたしはあなたが
即位した折から
後見役として
あなたが至らぬ時は
厳しく叱り
導いてきた
つもりです
はい…
母上の補佐は
未熟な宮括にとって
何にも勝る
頼れるものでした
感謝しております
いいえ！
そなたは感謝など
してはおらず
この母を
目障りと思っている！
そうでは
ありませんか!?
な…何を
おっしゃるのです
母上！
このわたしが
いつそのような
ことを…
誤解です！
！
国王の印を
わたしに返しなさい！

そ…それは一体どういうことなのです…？
あなたが至らぬ時はこの母が後見役として国政を見ますそういう国の規則です
バカな!!
母上！母上はわたしと五丈の関係を嫌っていた…！
それで…!!

兄上！母上のおっしゃられる通りです
ここは一つおとなしく印をお返しください!!
だれだ！だれがこのようなことを母上や弟らに吹き込んだのだ!!
死罪にするぞ!!

うおっ!!
き…きさま達!!

宮括様
国王の印を
皇太后様に
お返しください

家臣 八十八名一同
お願い申し上げます！

バカな…

そんな
バカな…!!

天下統一…
多くの覇者が夢見た
めくるめく世界に
今、手が届こうとしている
だが
その新しい世界が
どんなものか…
武功一途の俺には
眩いばかりでな…
そんなぁ
子供作る
なんて…
んなこと
考えたこと
ないし～…
一人で悩む
なってんだ!!
もちろん
今でも
そうだと
思ってる
そして
戦国時代の終焉を前に
多くの競演者達の
運命が揺れ動く…!!
お互い…
髪も髭も
白いものが
増えました
からなあ
ふん!
竜我の目の前で
その首を
うち落とせば
さぞ愉快だろうな!
自らの運命に殉ずる者
新しい時代に希望を抱く者
それは
時代を駆け抜けた男達の
最後の戦いでもあった
銀河戦国群雄伝ライ
第二十一巻!!

Dengeki Comics EX

銀河戦国群雄伝ライ ⑳

1999年4月25日　初版発行

著者　真鍋譲治

発行者　佐藤辰男

発行所　株式会社メディアワークス　〒101-8305 東京都千代田区神田駿河台1-8 東京YWCA会館 電話03-5281-5214(編集)

発売元　株式会社主婦の友社　〒101-8911 東京都千代田区神田駿河台2-9 電話03-5280-7550(営業)

装丁　朝倉哲也+design CREST

印刷・製本　共同印刷株式会社

©JOJI MANABE 1999

R本書の全部または一部を無断で複写(コピー)することは、著作権法上での例外を除き、禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、日本複写権センター(03-3401-2382)にご連絡ください。

Printed in Japan

落丁・乱丁本はお取り替えいたします。

初出／月刊電撃コミックガオ！'98年8月号～11月号(メディアワークス刊)

ISBN4-07-311898-6 C0979